



欲望の紋章

戦禍のミニスカヒロイン3

成人向け





































































































































































































































はあはあ・・・おじさんたち興奮してきたよ!!

<<・・・やっぱりパンツは白じゃねえとな!!

ガバッ

ガッ

あんっ

いっ

ガッ

ガッ

ごやめごやめっ!! やめてっ!! はなしてっ!!

だったら捕虜として俺らの相手しろやー!!

どうせ傭兵団の中で下の世話してるんだろー!!

へっー!! そんな短いスカート履いて戦場うろつく女が何をー!!

いやあああっー!! やめてええっー!!
じろじろ見ないでえ変態っー!!

はぁ...

はぁ...

はぁ...

見なご...

はぁ...

はぁ...

あきらめな!! 乱戦だったからな!!
てか死んでんじゃね?

周りには誰もいねえよ!! ははは!!

うう……お兄ちゃん……助けてえ……

男どもがお前相手に黙ってるわけないだろ？

毎日唾えてんだろ？ 上の口でも下の口でもちゅっ

へへ・・・見るのは初めてか？
そんなわけねえよな？

い・・・いや・・・だ・・・だって・・・それ・・・

じゅん
じゅん

やめてええっ!! パンツが汚れちゃう!!
お願いだからあぁっ!!

あぁ...ごちゃあ...はぁはぁ...

ごちゃごちゃあ... あっなごんごんあ...

はぁはぁ!!
あぁはぁ!!

ドクッ♡

ドクッ

ドクッ



でも俺らは容赦とかそういうのしねえからー!! 甘くねえからー!!

いい顔してんじゃねえかー!!
汚いモノ押し付けられて可哀想になあー!!

うう……やだあ……パンツ汚れ……ちやう……



あーあ可哀想に・・・このパンツ
精液でどろどろどろにさわちまうぜ？

くく・・・くくパンツに射精する気だぜ？

はあはあー！！ はあはあー！！
最高ー！！ このパンツ最高だぜー！！

いやああー！！ やめてえー！！
は・・・はげしくしないでええー！！

はあ！！

はあ！！

はあ！！

はあ！！

やめん

やめん

いや

いや

じゃ、そろそろ次、行こうか!! はははは!!

こんなミニスカで戦場にホイホイ出てくるからだぜ!!

いい顔してんなあおい!!
乱暴される気分はどうだ? ああ?

うう……ひ……ひど……精液が……
す……スカートの中……

んん

ぐっ

ぐっ

んん

んん

んん

んん
んん

ビッ
ビッ
ビッ

ッ
ッ
ッ

いぢめ……ぢめてえ……お願いだから……

や……
や……

無駄無駄!! 女の子の力じゃ無理無理♪

ふう……いいケツしてんなあ……どう犯してやるうか……

ガッ

ガッ

ッ
ッ

はあ……

はあ……



ああんっー!! やめてええ……お願いだから……

このままパンツィとジグち抜いてやるうかなあ〜>>>>……

<<……いなかっ? こっかなあ?

ガッ!

ああん

いざあ

ガッ!

つよ

つよ

っ〜

はあはあ……このままパンツの中に精液出してやるかー!!

いやあああっ!! だ……
だれかああ……助けてええ!!

さーて……穴はどこかなあ?
ここかなあ? こっちはお尻の穴かなあ?

お願い

やめてっ!!

いやあああっ!! やめて……
お願いだから挿入だけはああっ!!

ゲロゲロ

ゲロゲロ

いや……いやあ……
精液はいやあ……出さないでえ……

誰も来ねえっていつてんだろ!!
もう一回精液浴びて頭冷やせや!!

へへ……またたっぷり精液出させちゃうぜ?

いやあ……いやあ……だれかあ……

だっ!っ!

だっ!っ!

だっ!っ!

はぁっ

はぁっ



やだあああっー!! お願いだから
パンツの中に出さないでえー!! 外に出してええー!!

うん……はぁ……はぁ……かこ……

いちゃあめあめあめあめ……
精液が……パンツの中……



これで女になったわけだ!!
今後は仲間にもご奉仕してやれよ!!

ギョッ!!

本当にいい人ばかりだったんだな!! ははは!!

お……まさかの……未経験!!

あああっ!!
だめえっ!!
抜いてえっ!!

あ

あ

いっ
あ!!

はっ

びゅん
びゅん
びゅん

はっ

はっ

へへ……最高だぜ……今日はたっぷり楽しめそうだー!!

ふう……ぎりぎり……だが……この狭さが……はあはあ……

あああ……い……いたい……抜いてえ……

挿……挿……

挿……挿……挿……

はっ

はっ

挿

挿

挿

挿

挿

挿



気持ち良すぎてダメえってことだろー！ ひやはははー！

そんな顔でダメえなんていわれてもなあっ！

ふう……中出し最高だぜえー！

ドビッ
ドビッ
ドビッ

ドビッ
ドビッ
ドビッ

ドビッ
ドビッ
ドビッ

ドビッ
ドビッ

ドビッ
ドビッ

ドビッ
ドビッ
ドビッ

ドビッ

ドビッ

だめえっ

いやあ

持ち帰って俺らのガキを産ませるに決まってるんだろ!!

すっかりボロボロだな……さ……どうするよこの女……

もうすっかり夜になっちまったな……
どっかに連れ込めばよかったか……



ぐったり...

スカート・・・無茶苦茶短いな・・・

綺麗な足してるよな・・・はあはあ・・・

さ・・・スカートの中は・・・お・・・白だー!!

おじさんたちが可愛がってあげるから安心しなー!!

誰でもねーよー!! いい足してんなー!!

あっ……な……なに……?

だか……

だか……

わし

わし

わし

わし



まじまじとじかにやあんあん鳴いてほしいんだがな

やわらげえ……パンツも白くて最高だぜー！

や……やめて……スカートの中に……手を……



いい声してんじゃねえか!!
エロくて股間に直接響くようだぜ!!

>>.....そうそう.....そういう声な!!

そ.....そこ.....はっ.....
ぱ.....パンツ越しなのに.....

スリ

つん つん

スリ

ん

ん

ん

ま、こんな短いスカート履いてんだし、男に襲われるのも大歓迎なんだろ？

気持ちよかったんだろうな……俺の指ちよっと濡れてるぜ？

あ？ なんだ？ もっと欲しかったのか？

あっ……



ご希望のプレイがあれば実行いたしますよ〜？ ぎゃはははー！！

なんならもう挿入してやろうか？
何してほしいか言ってくれよう？

だったら顔面に押し付けてやろうか？ はははー！！

す……スカートの中に向けないで……

ズシッ
ズシッ

何も……

ゴハッ

ズシ

な……なにを……言……

このあとどっかに連れ込んで……口につっこんで……

はあはあ……このおぱんつにたっぷり……精液……

じ……ん……せ……ん……

はあ

はあ

ん

ん

ん

ん

ん

ん



ああんっ!! 汚いのいやあっ!!

ふう・・・出る出る!! 昨日抜かなかったからな!!

いやああっ!! 精液・・・かけないでええっ!!

じゅわん

どしょ

どしょ

どしょ

じゅわん

しゃん

しゃん!!



もういいだろ？ さっさと持ち帰るぞー！！

さーて次は何しよっかな

ふう……結構出たな……

うう……スカートの中が……汚され……



さ・・・夜明けまで楽しもうぜ？

いやあ・・・だ・・・だれかあ・・・

じゃ・・・まずはお腹もすいているだろうし・・・

おらー！ー！しゃぶねー！ー！ 啜えろー！ー！ ご奉仕しろー！ー！

しゃい

ほっ

ほっ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

っ

オラッ!!
しゃぶれ!!

ひひひ……歯は立てんなよ……

(いや……こんなのを啜え……うう……)

舌使って先っちょを可愛がってくれよう?

ん
ん
ん

おみ
おみ



そ……そろそろ出させ……ちゃんと飲み干してくれよ!!

昨日どころか三日入ってねえぜ!!
ちよーっとハードだったかあ?

苦しそうだな……おまえ昨日風呂入ってないだろ?

(臭い……汚い……こんなのいつまで……)

はあ

はあ

はあ

んっ

んっ

くちゅ

くちゅ

んっ



はあ...
ふう...

^^...

ドキッ
ドキッ
ドキッ
ドキッ

(.....)

.....

ちゃんと飲めよっ...

(.....の.....飲まなきゃ.....)



ふう……いい娘だ……

はあ……はあ……うえええ……

へへ……精液も飲まされたことだし、そろそろ……行くぜ!!

ふっふっ

へっへ

へっへ

はぁ

はぁ

じっ

じっ



あめあめっ！ー！ー！
や……やめてええっ！ー！

はあ……せ……せめえ……

い……いたい……さ……さめあめっ！ー！

びびり

おっ

おっ

びびり

びびり

びびり



はぁっ!!

はぁっ!!

んっ……んっ……

はぁっ…… はぁっ…… っ……

ど……でも……いそ……でも……

ち……ち……ち……ち……ち……ち……ち……ち……

っ

っ

っ

っ

47°

47°

っ

っ

まだ……もう二発口の中に入ってるから……

(うう……また……口の中に入っちゃった……(泣))

エロの口がふさがって盛り上がってきたぜえー!!

おおっ……

いいぜっ!!

んっ

むっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

はあっ!! はあっ!!
いいぜええ!! いいっ!!

だ...だめだ...だ...出すぞ!

(うう...すげい...
た...たえられ...ない...)

しょ

しょ

おっ!!

おっ!!

hao

7%

7%

hao

hao

7%

7%

3 7% 7% !!

7% 7% !!
7% 7% !!

3 7% 7% !!

7%

7%

7%

7%



おっ!! おっ!!

(ああああっ!!... だめえええっ!!...!)

そらよー!! 中出しだぜー!! 孕め孕め!!

こっちも出さずぜー!! 飲めよちゃんどー!!

俺もだー!! 全身に精液化粧だぜー!!

しゃん!!

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ズビュン

ズビュン

ほあッ

ふうッ

ッッ

さ、まだ夜は長い……次行くぜ次!!

そっちも楽しんでたみたいだが? 中の具合、すごかったぜ?

ひ……ひびく……中に……出すなんて……

あー気持ちよかった!! たっぷり出してやったぜえ……



へへ……明日からはちゃんと食事もやるから、体で払い続けてくれよな？

俺もだ……今日のところは満足だぜ……

ふう……さすがに疲れてきたぜ……

(も……もう……だ……だめ……)



犯ることやってから抜けさせてもらうぜー!!

ま...待ってください...それは...

もう付き合いきれねーんだよー! だからよお...

はあ...

はあ...

ざわ
ざわ

はあ...

はあ...

がわ
がわ

がわ
がわ

ここ最近まともに女抱いてなかった
からなあ…溜まってやがるぜー！

一般兵だと思って甘く見るなよう？ けっこうすげえんだぜ？

<<…>>どうよう？ 結構自信あるんだぜ？

やだ…こんなに…臭いの…？

ほあ

ほあ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

はあはあ・・・お・・・おぱんじを・・・

くく・・・ごせぬんかぢいさ...

ぶぶぶ・・・口の中・・・あつたけえ・・・

(んんん・・・ごせぬんかぢいさ...)

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ
はあ
はあ

ん

ん

はあ



(お尻の感触が気持ちいい)

はあはあ……ミカOさんのパンツ……すげえ……

すべすべして……白くて綺麗で……
それでいてリボンが可愛くて……

んっ!!

んっ

んっ

んっ!!

んっ
んっ

んっ
んっ

んっ
んっ

ああー！溜まってたもんが二気にでたぜー！

あーきもちいー最近負け続きたったしスカっとするぜー！

(ぼ・・・パンツの上で・・・こんな汚いの・・・いせあしー！)

(いせあしー！・・・く・・・口・・・あしー！)

おっ!!

おっ!!

びび

ドビ

ドビ

ん

ドビ

ん

ドビ

ドビ

ドビ

びび

おっ!!



はあはあ・・・久々の・・・おまのこだぜ・・・

あ、あ、
やめ、やめ、

やめてええっ!!
お願い抜いてええっ!!

せ・・・せまい・・・だが・・・

アキ
アキ
アキ



絶倫兵士か!! 強そうだな!!

俺もそうだけ...これが...クラスチェンジ!!

ふう...さっき出したばかりなのにな...へへ...

(んん...また...啜えさせられ...)

ほっ
ほっ
ほっ
ほっ
ほっ

んん
んん
んん



はあっー!! はあっー!!
もう・・・限界だ!! 中に出すぞー!!

とろとろだぜええ・・・もうだめだ・・・だめ・・・

(だ・・・だめ・・・こんな・・・はげしくさわたら・・・)



こりゃ、孕んじまうんじゃねえかな……

(中に……うっぱい……早く掻き出さないと……)

しゃい!!
しゃい!!
しゃい!!

ちゃんと飲んだな。いい娘だ……

ふう……中出し……すげえ手ごたえだ……

はぁ……
うっぱい……



パンツの中に……射精して……ください……

うう……いやあ……ぱ……パンツの……

そ……そ……んな……

じゃあ、もう挿入れるか……

へ……じゃあ言ってみる？
私のパンツの中に射精してっとなっ！！

うう……お願い……挿入しないで……

はぁ
はぁ

ズル
ズル



あああっ……擦れて……気持ち悪い……いやああー!!

やべええー!! 滅茶苦茶気持ちいいっ!!
パンツと体に挟まれ……

そっそっそっそっ……いい感触だぜー!!



完全にマニアックな変態の世界だけだな!! ははは!!

おお・・・気持ちよすぎる・・・

ううう・・・気持ち悪い・・・

おおおおー!! だ・・・出るぜえええ!!



ま、ちよっと精液が残ってるのが気になるが……

おお……結構きついんだな……

ああああっ！！ やめてえええっ！！



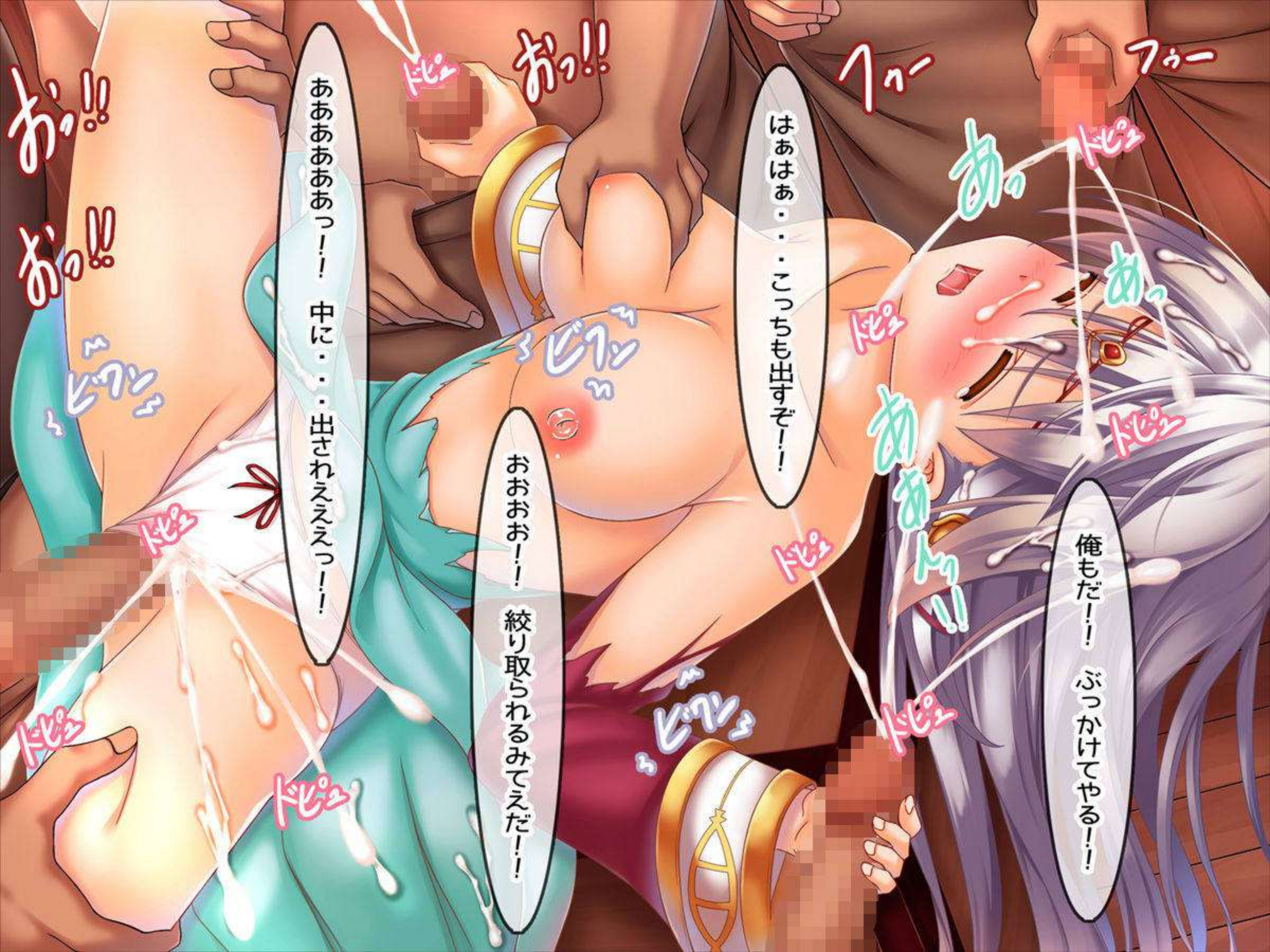
はあはあ……素直でいいなー！ おじさんからのご褒美だー！！

だ……だめえ……無理矢理されて……
いやなはず……なのに……

へへ……感じやすいんだな……そらー！！

うっ……めっ……やめてえ……





俺もだー!! ぶっかけてやるー!!

おっ!! おっ!! おっ!!

おっ!! おっ!! おっ!!

おっ!! おっ!! おっ!!

おっ!! おっ!!

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

おっ!!

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

あー あー あー

ドビュ

ドビュ

あー

ドビュ

アッ

アッ

中に入れてりやすぐ戻るぜ？

挿入前にこんなに出して大丈夫かな？

うんうん……出した出した……マジ最高ー！

いせ……いせ……いせめめめ……



いせ……いせ……いせめめめ……

ドロ、ドロ、ドロ

いせ……いせ……いせめめめ……

ドロ、ドロ、ドロ

ま……ま……ま……

ま……ま……ま……

中……中……中……

ドロ、ドロ、ドロ

ドロ、ドロ、ドロ

ドロ、ドロ、ドロ

ドロ、ドロ、ドロ

ドロ、ドロ、ドロ



びしょ...

やりすぎちゃいましたかね...

ま...まあ...もう軍抜けるんだし...

そ、そうだな...ここまでやった以上もう...猶予は...

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

びしょ...

びしょ...

げほ...

げほ...

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

やだあぁっー！ パンツ見ないでええっー！

ギシッ

しゃあ

助けろっ！

なかなかマニアックな縛りだな・・・パンツがよく見えるぜー！

ギシッ

はあ

はあ

はあはあ・・・いい眺めだぜえ・・・

はあ

ドク

ドク

ギシッ

ドク

ドク





とと...
とと...

え...ふせ...ふせ...ふせ...ふせ...ふせ...

これがおちんこの使い道なんだぜー！

どうして...

さっそくそのパンツに教え込んでやるぜー！

やべえ・・・無茶苦茶興奮する・・・
心臓が破裂しちまいそうだ・・・

あてなごうぞ

しゃっ

ム

お願い・・・パンツにあてないで・・・ いやあああ・・・

い・・・いやああああああ・・・ パンツに何する気なの・・・

んんん

んん

んん

はあ

はあ

はあ



はあー!! はあー!! た...たまらんー!!

そんなに激しくされたらパンツが破れちゃうっ!!

やだあぁっ!! 汚いの擦り付けないでええっ!!

はあ はあ

ズル
ズル

ぢゅ
ぢゅ

あ
あ

ギン

はっ

はっ

ギン

ギン

ギン

ギン



やだあああっ!! スカートの・・・パンツが汚れちゃうっ!!

やだ!!
やだ!!
やだ!!

トビュ
トビュ
トビュ

うっ!!
おっ!!

精液だよ!! さすがに見るのは初めてか!! そらそら!!

いやあああああっ!!
なにこれえっ!! 何が出てるのっ??

ほんとうにびびりな こわじや汚ばんつだぜー！

くっくっくっ...

くっくっ

ギレレッ

ビッ

ふう... 出た出た♪ 気持ちよかったぜえ...

んん... ぐんぐん... ぐんぐん...

ベトッ

ド

ド

ベトッ

くっ

くっ

くっ



そうだなあ……>>……パンツの中に出しちゃおうか!!

やめろ……

お腹痛い……

いや

いや……いや……お願いだから……

はあ

さーて……次は何しよっかなあ……

はあ

はあ

はあ

はあ

ドン

ドン

はあ

きん きん

なー！ なにっ？ なんなのっ！ いやああっ！

挿れないでっ！ そんな・・・パンツの中だなんてっ！

^^・・・いい感触♪ たまんねえ・・・

うわっ！！

パンツの中らっ！！

ズルッ！！
ズルッ！！



はあっ！... ふうっ！... すごい気持ちいいぜえっ！...

やめてええっ！... もう変な液体出さないでえっ！...

はあっ！... はあっ！... 止まらねえ！...

やめて... やめて... 挿って...

ぐわんぐわん... ぐわんぐわん

はっ！！

はっ！！



じゃあ俺も出すか！ 行くぜー！

~~~~~パンミの尻~~~~~

おっと・・・勢いあまってる・・・>>・・・

パンミの尻

うっ!!

うっ!!

うっ!!

うっ!!

ドビュ

ドビュ

ドビュ

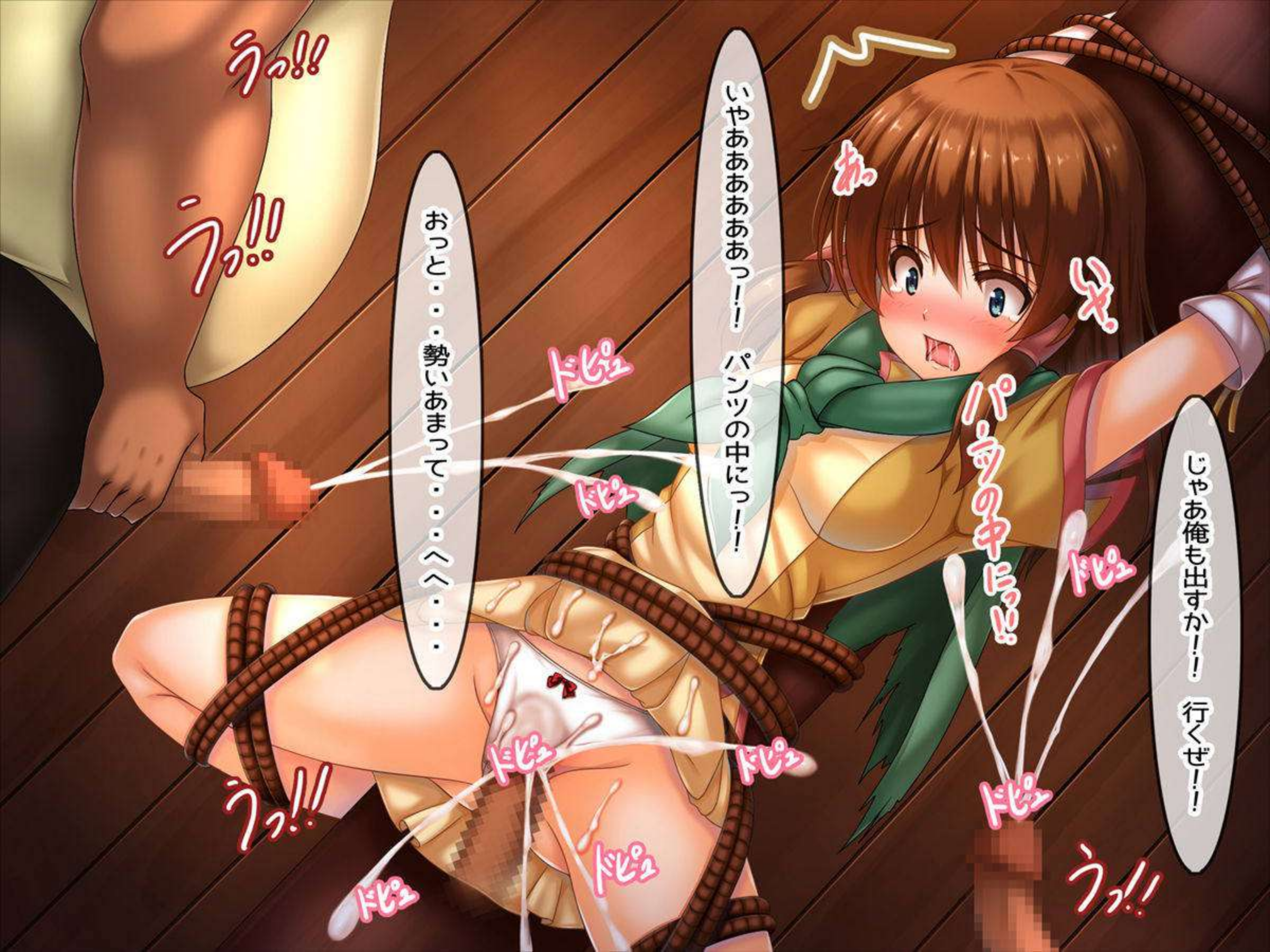
ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ

ドビュ







パンツ気持ち悪いの!! 履き替えさせて!!

ナニするんだらうねえ!!

あああああっ!! 何を・・・これ以上何をする気なのっ!!

ガバッ

やあ

こっぴどい...

やだあ

ガバッ

んん

んん



届かねんだよ!! あきらめろ!!

はぁ

はぁ

はぁ

悪いがな 世の中の男にそういう願いは...

はぁ

はぁ

はぁ

お願い...許して...お願い...

はぁ

はぁ





...いた...いた...  
...いた...いた...

ふっ...せ...せま...

でも...すげえ...いいせ...

おっ

痛い!!

おっ

ぐわっ!!

ぐわっ!!

~

ふっ...

~

そ……そんなわけ……あん……

はっ

はっ

その顔……お前も少しづつ良くなってるんだろ？

あん

あん

あ……

お願い……抜いてよお……

んっ♡

んっ♡



嘘はつきたくないって体が言ってるんだよー！ そらそらー！

ほあ!!

ほあ!!

だめじゃねえんだろ? わかってんだよー!

あん♡

あん♡

あん♡

ガッ♡

だめっー!! だめなのっー!! あめあめっー!!

グッ!!

フッ♡

フッ♡

フッ♡





こりやお仕置が必要だな……へへ……こっちの穴に……

あ？ バカかてめえは？ 俺も犯るに決まってるんだろ？

うう……お願い……もう挿入しないで……

うわ……

やめし……

ハッ

トッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ









はぁっ!!

はぁっ!!

おねがいだからあめあめあめ!! とめてええっ!!

んっっっっっっっマジで名器だなっっっっっっ

はぁ!! はぁ!!  
すげえっっっこの穴もいいな!!

おっ  
おっ

壊  
かっ

はぁん!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

はぁん!!









げほ...げほ...あぁ...

もうぶっ壊れちゃったか...

はぁ...

はぁ...

はぁ...

はぁ...

ペッ

ペッ

ヒョ...

はぁ

はぁ

ペッ

ペッ

はぁ

はぁ

ペッ

ヒョ...

くそっ……なんでこんな連中に……一対一なら……

ちゃんとリボンついてるんだなー！  
はははー！可愛くていいなー！

ガバッ！！

パンツは白……リボン付き……

ドクン  
ドクン

ドクン  
ドクン

んっ  
んっ

んっ  
んっ



<<.....可愛いお顔にぶっかけてやるぜー！

え.....な.....なに.....

髪もサラサラで.....たまんねえぜ.....

はあはあ.....肌綺麗だなあ.....

はあ...

はあ...

はあ

はあ

はあ...

はあ...

はあ

はあ





善は急げって言うのでしょ？ あーまきまちいー

早くないか？ 出すの？

ふう……はあ……でちやった♪

まやあぁっー！ やだあぁっー！

じっ！！

ドビッ

ドビッ

ドビッ

あ

やだっ

っ

っ

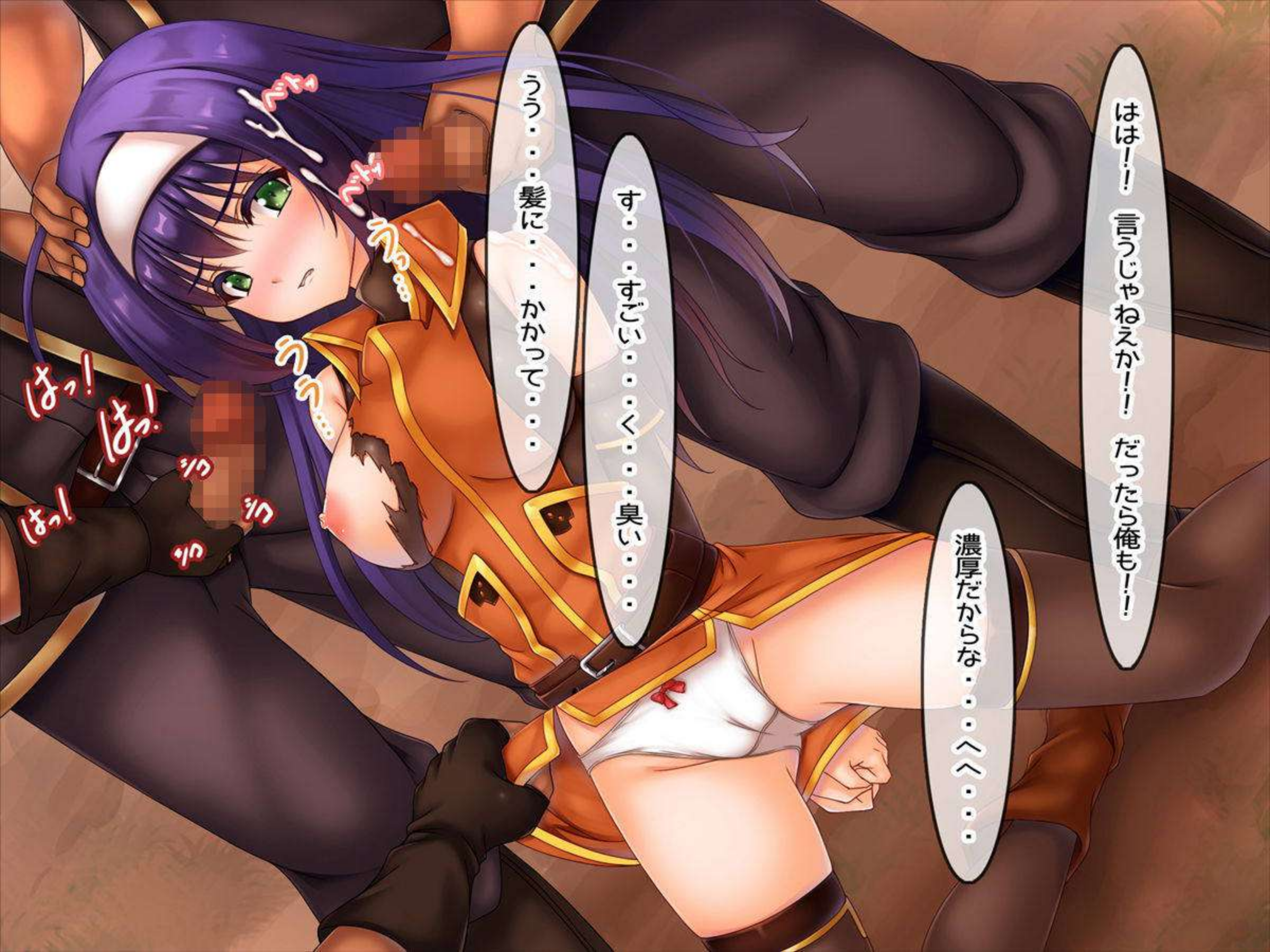
ははー!! 言うじゃねえか!! だったら俺も!!

濃厚だからな……>>……

す……す……く……臭い……

う……う……髪に……かか……

はっ! はっ! はっ!  
はっ! はっ! はっ!



ふうう……こんない女相手に射精するの久々だぜえ……

せめじー……かけなごじめせじー……

せめじー……つせめせじー……





じゃあこのパンツー！ 使わせてもらおうぜー！

いやああっ！ー！ 何をする気なのっ！ー！  
あたしのパンツにっ！ー！

<<……やっぱパンツはいいよなあ……

ん？ ……さ……な……？

ん？

ん？

ドクン  
ドクン

ひ……ひる……精液……パンツの上に出すぞ……!

いい……! パンツの感触……! たまらん……!

はぁ……! はぁ……! うおおお……!

はぁ!! はぁ!!

は……ぱん……パンツ……いせあ……

はぁ

ぱん……

はぁ

はぁ



このパンツもうはけねーなー!!  
スカート自体怖くて履けなくなっちゃうか?

出した出した♪ やっぱスカート  
めくってパンツに出すのは最高だぜー!!

しゃっ!!

はぁ... はぁ...

はぁ...ピンギが...くすぐり...



言っこと聞けやこらー！ 早速犯されてえのかー？

おらー！ しゃぶるんだよー！ ぶっ殺すぞー！

くくく…いい眺めだぜ…白パンツ…

あう…ち…ち…ち…ち…

ちゅ…

ん

ガッ

ガッ

はぁ

はぁ

はぁ

ズ

ズ

ガッ

おらっ!!

しゃぶれ!!

んっ  
んっ  
んっ  
んっ

(んっっ!!  
く……□の#……?)

あつたけえな……じゃあ気合い入れてしゃぶれよ!!

んっ!!

(あっ……いゃああっ……)

そらっ!! 舌使い!! じゃないとこのまま突きまくるぞ!!



しょっ!!

しょっ!!

しょっ!!

んっ

んっ

んっ

んっ

(ま……ふっ……あたしが……)

キー……キー……いい感じじゃねえか……

(うう……はやく……終わってよ……)

<<……もうイヤって顔だな……じゃあ出してやるよ……





ぐいっ...

ほあ...

げぼ。

へっ

ぽほ。

トロ...

っっ  
っっ

っっ

あーあ そんなに嫌な味だったかあ？

なんであたしが...こんな...うえええ...

ったく...ごりやあもっと立場をわからせてやらねえとなー!!

ありえねえな!! 俺だったらほっとかねえわ絶対!!

この顔このミニスカで?  
どこの聖人君子だ? こいつの周りの男どもは!!

おお・・・こりゃ・・・初めてだったか!!

あっ!!... あああっ!!...  
い...いれないでえっ!!

あっ!!  
あっ!!

びびり

パチ  
パチ  
パチ

うあああっ……抜いてええ……いたい……

おお……すげえ締め付け……や……やべえ……

気持ちよさそうだなー！ じゃあ俺も……

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ  
はぁ  
はぁ





ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

<<……三本挿しの完成!!

いいな!! 誰が最初に射精するかチキンレースだ!!

戦いで負かした美少女を犯すってのがまたたまらねえ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!



(あぁあっ！！ 頭の中が・・・お尻が痛いのにっ！！)

(ふっふっ・・・なんど・・・気持ちよへ・・・)

(こんなに滅茶苦茶なこと・・・さわるのになっ・・・)

ほっ!!

んっ

ほっ!!

んっ

んっ

んっ

ほっ!!

ほっ!!

ほっ!!

ゆっ♡

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

ゆっ♡



いつもより絶対濃いぜー！ そろそろー！

これも飲めよー！ 栄養満点だー！

孕めー！ 孕めえっー！

トビッ

クッ

トビッ

トビッ

トビッ

トビッ

トビッ

トビッ

トビッ



さてと・・・こんない女まず抱く機会ないからな・・・



でももうボロボロだぜ？ 持ち帰る意味もねえだろ？

じゃ・・・あと二晩・・・二晩！！

ほお・・・  
ほお・・・

おっ・・・  
おっ・・・

ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン  
ドロン

ミス〇は敵の兵士たちに囲まれてしまっていた。

「へへ。。。こんなところで女がなにしてんだあ。。。」

「いつ確か。。。あの傭兵団の団長の妹だろ？ 噂のよあ」

「ああ。。。そつにえはやたら可愛くてミスカがたまらねえとかなんとか。。。」

男たちがミス〇のミニスカートをじろじろと見まわし、くりと涎を飲む。

「へへ。。。やっちなまうかー！」

「ああー！ まずは。。。その短いスカートの中だー！」

男たちはそう言うつとミス〇を地面に押し倒した。

「いやああー！ やめてっ！ はなしてえっ！」

ミス〇のミニスカートの中が露になる。

「へへ。。。やっぱパンツは白じゃねえとなー！」

「はあはあ。。。おじさんたち興奮してきたよー！」

男の視線がミス〇の下着に集中していく。。。。

「いや。。。ぱ。。。パンツ。。。みないでえ。。。」

ほほを赤らめ男たちを見つめるミス〇。



「パンツみないでえ。。。ってこんな短いスカート履いていつ合詞かよ?」  
「はあはあ。。。やへえ。。。絶景だぜこれ!! 肌やわらけえ。。。」  
男たちの鼻息が荒くなっていく。

ミスOのミニスカートの中が彼らの本能に火をつけていく。。。

「いやあああっ!! やめてええっ!! じろじろ見ないでえ変態っ!!」  
大声で叫び始めるミスO。

「へっ!! そんな短いスカート履いて戦場づろつく女が何を!!」

「どうせ傭兵団の中で下の世話してるんだろ!!」

「だったら捕虜として俺らの相手しろや!!」

ミスOをがっしりと拘束し、次々と汚い言葉を投げかけていく男たち。。。



「うっ……。お兄ちゃん……。助けてえ……。」

男たちを睨みつけながら声を振り絞るミス。

「周りには誰もいねえよ…… ははは……」

「あきらめな…… 乱戦だったからな…… てか死んでんじゃね？」

男があしらうように言う。

「そ……。そんなわけ……。絶対助けに……。きて……」

ミスへの悔しそうな顔、都合よく助けなど来るはずなのにそれを夢見る思考……

戦場でミススカートをひらひらさせたりする認識の甘さと単純な見た目の可愛らしさ……

多くの要素が男たちをますます興奮させていくのだった……

「まーあれだな…… 助けが来たら困るよなあ……」

「お……。そうかそうか、じゃあ早めに……」

「楽しませてもらわないとなあ……」

男はそう言いつとギンギンに硬くなった肉棒を取り出した。



「B。。。。や。。。。だ。。。。だいて。。。。それ。。。。」  
ギンギンに勃起した肉棒がミスの下着に向けられる。

「へ。。。。見るのは初めてか？ そんなわけねえよな？」

「毎日唾えてんだろ？ 上の口でも下の口でもよ？」

「男どもがお前相手に黙ってるわけないだろ？」

実際傭兵団の一部の男性は彼女のミススカートが気になったりしているのだが。。。。

「そ。。。。そんなわけ。。。。絶対。。。。遠う。。。。もん。。。。」

視線に心当たりがないわけじゃなかった。。。。

明らかにミススカートを見つめる視線が合ったのは事実だった。。。。

「へ。。。。そついつ視線はあったってことだな。。。。」

「そいつらが夜な夜な望んだこの極上パンツ、一足先に楽しませてもらうぜ！」

男はそついつとこの肉棒をミスの下着に接触させた。。。。



「いやあああつー!! あてないでええつー!!」

男の肉棒の先端がミス〇の下着を襲い始める。

その魅惑の布地に触れた瞬間、びりっとしびれるような感覚が男の肉棒に走る。

「おお。。。こりゃあ。。。はあはあ。。。」

男がゆっくりと腰を振りミス〇の下着を肉棒で突き始める。

肉棒の先端がミス〇の下着に触れるたびに男の脳内に電撃が走る。

「やめてええつー!! パンツが汚れちゃう!! お願いだからああつー!!」

叫び散らすミス〇の声。

その声がさらに男の性欲に火をつけていくのだった。。。



「はぁはぁ。。。すげえ。。。気持ちいい。。。」

「ミス〇の下着の感触を味わい、恍惚とした表情を浮かべる男。

「うっ。。。やだぁ。。。パンツ汚れ。。。ちやう。。。」

「恐怖と悔しさで歯を食いしばるミス〇。

「いい顔してんじやねえか!! 汚いモノ押し付けられて可哀想になぁ!!」

「でも俺らは容赦とかさっついつのしねえから!! 甘くねえから!!」

「ああ。。。じやあNNNNNN。。。激しくいくぜ!!」

男はさっついつとミス〇の下着に思い切りこの肉棒を擦り付け始めた。。。



「いやあああ—— やめてえ—— は。。。はげしくしないでええ——」  
じゅっじゅっとして下着と男の肉棒がこすれる音がある。

「はあはあ—— はあはあ—— 最高—— このパンツ最高だぜ——」  
男の動きが残像を帯びるほどに早く激しくなっていく。

「へへ。。。こいつパンツに射精する気だぜ？」

「あーあ可哀想に。。。このパンツ精液でとっるとっるにされちまうぜ？」  
男たちが笑いながらミス〇に語り掛ける。

「回。。。いや。。。ば。。。パンツに。。。かけない。。。いやあああ——」

ミス〇の願いを遮るように男の肉棒から大量の精液が放出されていた。。。



「やああああっ…… 精液かけないでええっ……!」

どぴどぴえええの的下着に向けて精液が解き放たれていく。

「ええええええええやるからよあ……!」

びちゃびちゃとええのの下半身に精液が飛び散り

下着だけでなくええスカートやその柔肌までも汚していく……

「あああっ…… やだああっ…… 汚いの…… 臭いのやだああっ……!」

涙を浮かべながら叫び散らすええのの声が男たちを盛り上げていく……



「ぶっっっ。出した出したよ、パンプンとぶっつたぞっ」

己の出した精液を見ながら満足げに男が笑う。

「ひでえ量だなおいー! 何日分だこれ?」

「この量が中に出されてたら辛んでるだろうなあー! ひゃひゃひゃー!」

周りの男たちもゲラゲラと笑い出す。

「うっっっ。ひっっっ。ひどっっ。精液が……す……スカートの中……」

下着や肌をぶちまけられた精液の嫌な感触がミス〇を襲う。

「おい顔してんなおいー! 乱暴される気分はどうだ? ああ?」

「こんなミスカで戦場にホイホイ出てくるからだぜー!」

「じゃ、NONNON次、行こうかー! ははははー!」

男たちはそう言うとミス〇を無理矢理ひっくり返し、そのお尻を持ち上げた。



「やあ。。。やめてえ。。。お願いだから。。。」

ミスこのミスカートは完全に捲り上げられ、男たちによる下着をさらけ出して居る。

「無駄無駄!! 女の子の力じゃ無理無理!!」

必死にあがこうとするが男たちによりしっかりと押さえつけられ

ミスのはたただ、己の無力さを痛感するだけであった。

「ふう。。。いけツしてんなあ。。。どう犯してやるうか。。。」

男がミスのお尻を撫でまわす。

「やだあ。。。やめて。。。お。。。犯さないで。。。お願い。。。」

先ほど下着に精液をかけられたからか、おびえきった声でミスOが言う。



男の肉棒がミス〇の下着越しにその割れ目に触れる。

「へへへ。。。。。。」「二か？」「二かなあ？」

男がねちねちとミス〇の割れ目を攻め始める。

「このままパンツミとぶち抜いてやるっかなあへへへ。。。。。」

精液を出したばかりのはずの肉棒があっという間に硬さを取り戻していく。

「ああんっ！。。。。 やめてええ。。。。 お願いだから。。。。。」

やめてやめてと何度も何度も男たちにすがるようにミス〇が言う。

「お願いだからあ。。。。これ以上。。。。ひとことしないでえ。。。。。」

抵抗する術を持たない少女の嘆きが、お願いする以外何もできないその姿。。。。

「やっぱいいよなあ。。。。戦場の醍醐味だぜ！！ ぞろ行くぜ！！」

男はぞろぞろとミス〇の下着の中にこの肉棒を潜り込ませていった。。。。





「いやあああつー!! やめて。。。お願いだから挿入だけはあつー!!」  
「ミス〇の下着の中に勃起した肉棒が潜り込む。」

「さーて。。。穴はどこかなあ?」「どこかなあ?」「こっちはお尻の穴かなあ?」  
男の肉棒がミス〇の下着の中で動き回る。

「いやあああつー!! だ。。。だれかああ。。。助けてええ!!」

先ほどは完全に下着越しであったが、今回は直接肌に肉棒が触れている。  
その感触がミス〇に先ほどより強い恐怖を与えている。

「はあああ。。。このままパンツの中に精液出してやるか!!」

男はそう言つとミス〇の下着と肌の感触を堪能し始めた。。。



「はぁはぁ。。。パンツと肌の締め付け。。。これは。。。」

射精欲を抑えながら男が腰を振る。

「いやぁ。。。いやぁ。。。だれかぁ。。。」

悔しそうに唇をかみ、助けを求めてか弱い声を出すミス。

「へへ。。。またたっぶり精液出されちゃうぜ?」

「誰も来ねえって聞いてんだろ!! もつ二回精液浴びて頭冷やせや!!」

男の動きがお仕置きをするかのように激しくなっていく。

「いや。。。いやぁ。。。精液はいやぁ。。。出さないでえ。。。」

震えながら目をつむるミス。

「はぁはぁ。。。出しますよぉ!! 精液!!」

男はそう言いつつミスの下着の中に精液をふちまけていった。。。





「すげ。。。やっきアレだけぶちまけておいて。。。」

「相変わらずの絶倫っぷりですねえ。。。」

「へえ。。。こつこつミスカ少女限定だがなー！ ぶっ。。。」  
男がミスの太ももを撫でながら息をつく。

「っっ。。。ぐとぐと。。。パンツの中が。。。べとべと。。。」

その言葉通り大量の精液がミスの下着の中にびりびりこぼれる。

「。。。おパンツはじっくり堪能させてもらったし。。。んんん。。。」

「っっ。。。ミスの下の口はその肉棒をあてがった。。。」

「や。。。やめ。。。やめてえええっ。。。」

絶叫と同時に男とミスの手が繋がっていった。。。



「ああああっ……だめえっ……抜いてえっ……」  
「ずぶずぶと……」スの中にも男の肉棒が挿入されて……

「お……まさかの……未経験……」

その証を引き裂きながら肉棒が膣内に潜り込んでいく……

「本当にいい人ばかりだったんだな……ははは……」

「これで女になったわけだ……今後は仲間にもご奉仕してやれよ……」

「ま、俺たちにぶっ壊される可能性のほうが高いけどな……ひゃははは……」

笑いながら男はゆっくりと腰を振り始める。





「あああんっ……うっ……」

しばらくして時折ミス〇の声に甘い喘ぎ声が混じるようになってきた。

「お……感じ始めたか？ へへへ……」

唇をかみ必死に快楽に抗おうとするミス〇。

初めての快楽をつまぐ処理できずに男たちに甘い声を晒してしまっている。

「そんなわけえ……うっ……だれかあ……」

助けを求めて声をあげるミス〇。

「なんだあ？ 誰かに犯されてると見られたいのかあ？」

「たっぶり見てやってるから安心しろよ……てめえのレイプシーン……」

「おっ……こいつが中に出すときは俺たちも精液ぶっかけてやるからな……」

男たちがげらげらと臭い息をまき散らす。

「ま、戦場でミス力はいて男を惑わすような女だ……俺も本気を……」

男の肉棒がミス〇の奥を一気に突く。

「出さねえとなあ……」

男はそう言うと獣のように激しく腰を振り始めた……



「はぁ。。。あん。。。ぬ。。。抜いてよぉ。。。」  
ばんばんとミス〇と男の肉体が激しくぶつかる。

「ぶっ。。。はぁ。。。くっく。。。NUNUNU=」  
己の快楽だけを求めるような動きでミス〇を激しく攻め立てる。

「ああぁ。。。いっちゃ。。。いっちゃっ。。。」  
必死に意識をつなぎとめようとするミス〇。

「頭の中が。。。だめえ。。。こんなの。。。」

だがそんなささやかな抵抗で男の激しい行為に抗うことは到底できず  
徐々にミス〇の頭の中が真っ白になっていくのだった・・・

「もっ。。。だめ。。。こんな人に。。。どうしてえ。。。」  
ミス〇が限界を迎える。そして・・・

「はぁはぁ。。。俺も限界だ。。。中に。。。中に出すぞ孕みやがれええっ!!!」  
男はそう言いつつミス〇の中に大量の精液を放出していくのだった・・・





「いやあああああっ!! だめええっ!!」

どくどくと膣内に精液が注がれていく。。。

「ぶっ。。。。中出し最高だぜえ!!」

男の肉棒がミス〇の奥に突き刺さり精液を放出している。

「そんな顔でダメえなんていわれてもなあっ!!」

「気持ち良すぎてダメえってことだろ!! ひやははは!!」

周りの男たちもミス〇に向けてどぴゅどぴゅと精液をぶっかけていく。。。

「あ。。。。あっちもこっちも。。。。精液。。。。やめてええっ!!」

あっといつ間にミス〇の全身が白く濁った液体で汚されていく。。。





何度中に出されたのか。。。ひたすら男たちに犯され  
ミスのはポロポロになってしまった。。。

「はぁ。。。はぁ。。。も。。。も。。。」

精液を口から吐き出し、苦しむのを息をする。

「へへ。。。お口もたっぷり使ってやったからなあ。。。」

「根めしそうな顔で精液飲み干していくの最高だったな！！ ははは！！」

男たちが楽しそうに笑う。

「もうすっかり夜になっちまったな。。。とっかに連れ込めばよかったか。。。」

「すっかりポロポロだな。。。さ。。。さ。。。どうするよこの女。。。」

「持ち帰って俺らのガキを産ませるに決まってるんだろ！！」

こうしてミスのは男たちの軍団に連れ去られ

そこで望まぬ命を孕まされるのだった。。。。



イレーは二人旅の途中、空腹でふらふらになっていた。

そこを運悪く傭兵崩れの男たちに襲われたのだった。

本来得意であるはずの魔法もうまく撃てず、男たちの前に膝を折ってしまったのだ。

「くっ……」

倒れこみ意識を失うイレー。

男たちが彼女を逃がさないようにと取り囲む。

「へへ……こりゃあ上玉だな……」

「こんな女が二人旅かよ……無防備といっかなんといっか……」

男たちはそう言うのと倒れたイレーのミニスカートに視線を送る。

「スカート……無茶苦茶短いな……」

「綺麗な足してるよな……はあはあ……」

「さ……スカートの中は……お……白だ……」

男の腕がイレーのミニスカートの中に伸びていく……



「あ……な……な……」

太ももを男が撫で始める。

イレーンが意識を取り戻しゆっくり目を開く。

「だ……だれ……?」

空腹とダメージ、特に前者の影響であまり頭が働いていないようだ。

「誰でもねーよー! しい足してんなー!」

「おじさんたちが可愛がってあげるから安心しなー!」

ぐんぐんと鼻の下を伸ばして男たちが笑う。

「い……いりません……あ……足に触らな……いで……」

気持ち悪い愛撫に抵抗しようとするが、うまく体が動かない。

「う……痛……おなかも……ずいて……いやあん……」

抵抗できず「可愛らしい声で嫌がるイレーンの姿

その姿に自然ともう一本の腕が彼女のミニスカートの中に伸びてく……

「や……やめて……スカートの中に……手を……」

男の指がイレーンのお尻に触れる。

「あん……ど……を……触……」

戸惑いの視線を男たちに送るイレーン。

「やわらけえ……パンツも白くて最高だぜ……」

かなりきわどいミニスカートから覗く白い布地が男の性欲を滾らせていく……

「もうちよつこいやいやあんあん鳴いてほしいんだがな」

「いつまで寝ぼけてるんだよ？ そこのまでポコポコにしてねえだろ」

「ほんと全然叫ばねえな……んじゃこれどうだ？ 大事なところだろ」

目の前で倒れている少女に現実を教え込むために

男の親指が下着越しにイレーンの割れ目を押し始める。









「いやあ。。。な。。。なにを出しているんですか。。。」

男の勃起した肉棒がイレーロの下着に向けられる。

「す。。。スカートの中に向けないで。。。」

こんなモノを下着やスカートに押し付けられたくない。。。  
力を振り絞るようにイレーロが声を出す。

「だったら顔面に押し付けてやるのか？ はははー！」

「なんならもう挿入してやるのか？ 何してほしいか言ってくれよ？」

「ご希望のプレイがあれば実行いたしますよ？ ぎゃはははー！」

男たちが楽しそうに声を上げて笑う。

「いや。。。全部。。。いやあああー！」

そんなイレーロの言葉に男たちが従うはずもなく。。。。

「さーてー！ おパンツにたっぷり射精してやるかー！」

男はそう言うといレーロの下着に向けて

大量の精液をぶちまけるためにこの肉棒をしごき始めた。。。。



「うう。。。。やめてえ。。。。」  
うっすらと涙が浮かんでくる。

「はぁはぁ。。。。このおぼろげな。。。。精液。。。。」  
男が一心不乱におれの肉棒をしゃべっている。

「このあとどこかに連れ込んで。。。。ロクして。。。。」  
男の頭の中でイレーノが凌辱を受けていく。。。。

「な。。。。なにを。。。。言ってる。。。。」

妄想を練り広げながら男がイレーノの下着をおかずに肉棒をしゃべり。。。。

「はぁはぁ。。。。中に出しまくってよぉ。。。。へへ。。。。」

男の興奮が最高潮に向かっていく。。。。

「うう。。。。えい。。。。みんな。。。。」

唇をかみながら涙目で男たちを見つめるイレーノ。。。。

程なくして男の肉棒から大量の精液が解き放たれていった。。。。





「うっ。。。。スカートの中が。。。。汚され。。。。」

「スカートの中に大量の精液がぶちまけられてる。。。。」

「わん。。。。ぐんぐん。。。。うん。。。。気持ち悪い。。。。」

濃厚な白濁液がとろりと重力に従い垂れ落ちていく。。。。

「ぶっ。。。。結構出たな。。。。」

すっきりしたような顔で男が呟く。。。。

「さて次は何しようかな」

「もう一回だろ。さっさと持ち帰るぞー!」

「もうだな。。。。ぐん。。。。たっぶり可愛がってやるー!」

「うん。。。。うん。。。。は。。。。んかの小屋に連れ去られてしまった。。。。」



「さ……夜明けまで楽しもうぜ」と  
男たちがイレーの肉体に群がる。

「いやあ……だ……だれかあ……」

何本もの肉棒を向けられ恐怖におびえるイレー。

「こんなところに誰かが助けに来るわけねーだろ……」

「男が来たら返り討ちで、女が来たらお前の横に並べて犯すだけだぜ……」

「そつそつ…… だから遠慮なく可愛い声で泣き叫んでくれていいんだぜ……」

夜の闇、人気がない場所にある小屋……

まず間違ひなく横槍は入らないこの状況が男たをより興奮させている。

「じゃ……まずはお腹もすいているだろうし……」

男はそう言いつつイレーの口元に肉棒を突き付けた。

「おら……じゃぶれ……啜える……奉仕しろ……」

イレーの口の中に男のモンが入り込んでく……





「んっ。。。。はぁ。。。。SSB。。。。」

男の口から思わず声が漏れる。

「(臭い。。。。汚い。。。。こんなのに。。。。)」

口内が唾液であふれていく。。。。

「(吐きたい。。。。気持ち悪い。。。。)」

瞳を閉じ全身を走る嫌悪感と戦いながら必死に男の行為に耐えるイレー。

「苦しそうだな。。。。おまえ昨日風呂入ってないだろ?」

「昨日どこか三日入ってねえぜ!」 ちょーっとハードだったかあ?」

男がにやにやと気持ち悪い笑みを浮かべる。

「ん。。。。NONNON出すぜ。。。。ちゃんと飲み干してくれよ!」

んんんんん大量の精液がイレーの口内にぶちまけられていた。。。。

「Ee...Ee...ああ...」

あ...あ...間に精液でイレーの口内が満たされて...

「ふっ...はあ...きもちいい...」

男がびんびんと体を震わせ精液を放出する。

「ちゃんと飲めよ...」

口内の精液がのどに絡みつき、呼吸を阻害し始める。

「No...なる...の...飲まなきゃ...」

息苦しさに耐えきれず嫌々精液を流し込んでいく...

「濃縮した濃厚な精液がのどを通過していく...」





「ふん。。。。お嬢だ。。。」

男がイレーの口から肉棒を引き抜いていく。。。

「はあ。。。。はあ。。。。うんええ。。。。」

飲み干した精液を吐き出さずと鳴咽を漏らすイレー。

「よっぽどひでえ味だったんだろっなあ。。。」

「じっかし栄養満点だね？ 食事だと思ってそのまま消化してくれよ。。。」

男がイレーの頬に手を当て、撫でまわす。


「ん。。。。精液も飲まされたことだし、NONNON。。。。行んぜ。。。」

その言葉と同時にイレーの下着がずらされていった。。。

そして、その布地に隠されていた性器が

男の肉棒にゆっくりとを貫かれていくのだった。。。





「あああぁっ……や……やめなッスッ……」  
「ずぶずぶ」硬くて太い男の肉棒がイレーの膣内に入り込んでいった……  
「はぁ……せ……せめえ……」  
肉棒を押し出さそうとするような強い締め付けに抗いながら  
男の肉棒がゆいゆいと前に進んでいく……  
「E……E……や……やあぁっ……」  
痛みと屈辱に耐えきれずイレーの口から絶叫が漏れる。  
「はげえ……」その声が余計、余計に下半身を滾らせてくるぜ……」  
男はそう言いつつゆいゆいと腰を動かし始めた……

「うう。。。こんなの。。。」

悔しそうに目をつむり、唇をかむイレー。。

「はぁっ。。。はぁっ。。。セッ。。。」

膣内の締め付けが男の肉棒に射精を促している。

だがまだ挿入して数分すら経過して回ない。。。。


「。。。でちま。。。いそつた。。。でも。。。」

こんなすぐに精液を出すわけにはいかない。。。。

「ちゃんとしてちも気持ちよく。。。してやるからなあ。。。」

男は腹にぐっと力を込め、射精欲に抗いながらイレーの肉体を堪能し始めた。。。。



A blue-haired anime girl with purple eyes and a gag in her mouth is being held by several men. She has a distressed expression and is sweating. The men are wearing dark clothing and gloves. The scene is set in a dark environment.

「見てたらまた勃起してきたぜ。。。」「  
先ほどイレーの口内に精液を解き放った肉棒が再び力を取り戻している。  
「さて。。。もう一発口の中に出してやるかー」  
再び口内に肉棒が突き刺さる。  
「くっ。。。また。。。口の中に出されるぜ。。。の？」  
嫌な臭いと味が口内に満ちていく。  
「上下の口がふさがって、盛り上がってきたぜー」  
男たちの興奮がさらに激しくなっていく。。。  
それだけではなく、イレーの体も。。。」

「だめ。。。んんん。。。体が熱く。。。」

男の行為が徐々にイレーナの体を蝕き始める。

「中ぐっちゃんぐっちゃんだぜ。。。ぶちゅぶちゅにっやがる。。。」

「めっちゃくちゃイイんだろ？ 顔も火照っているようだぜ？」

「体は正直なんだな。。。んん。。。」

イレーナが堕ちていく姿を楽しむ男たち。

「んんん。。。んんん。。。感じちがう。。。ん。。。」

涙を浮かべるイレーナ。

「悔し涙か。。。んん。。。」

「よっぽどいい感じな。。。ははは。。。」

「だいたいのせいでいい感じをね。。。んん。。。」

男はさっさとイレーナの膣内を突き始めたのだった。。。





「ああああっ……だめええっ……!!」  
イレーンが絶頂を迎える。

「あらよ……中出しだぜ……孕め孕め……」

どぴゅどぴゅと音を立てながらイレーンの膈内に精液が注がる。

大量の精液はほどなくして膈内を満たし、さらに結合部からあふれ出していく。

「こっちも出すぜ……飲めよちやんと……」

「俺もだ……全身に精液化粧だぜ……」

他の男たちもイレーンに向けて精液を放出していく……

「(いや……いやああああっ……!!)」

涙を流し射精に耐えるイレーン。

「はぁ。。。はぁ。。。」

イレーンが己の下半身に視線を送る。

男性に暴行された無残な女性器が瞳に映る。

「あー気持ちよかったー！ たっぶり出してやったぜえ。。。」

イレーンの頭を撫でながら男が気持ち悪い笑顔を浮かべる。

「ひ。。。ひとい。。。中に。。。出すなんて。。。」

精液を吐き出しながらイレーンが呟く。

「そっちも楽しんでみたいだが？ 中の具合、すごかったぜ。」

「そっそもう、どうせ本能には逆らえねーんだよー！」

「さ、まだ夜は長い。。。次行かせ次ー！」

別の男の肉棒がイレーンの膣内に入り込んでいく。

その男が終わったその次、その次と。。。。





「も。。。もう。。。だ。。。だ。。。だ。。。」

何時間暴行されていたのか。。。

レイコの全身は精液で汚され尽くしてた。。。

「ぶっ。。。さすがに疲れてきたぜ。。。」

「俺もだ。。。今日のところは満足だぜ。。。」

「へ。。。明日からはちゃんと食事もやるから、体で払い続けてくれよな？」

レイコは男たちの性欲処理係として

彼らに使われ、誰の子供ともわからぬ命を宿すのだった。。。



「ま。。。。これは一体。。。。」

男たちに取り囲まれ戸惑うミカ。

「はぁはぁ。。。。もう。。。。終わりにじゃないですか!」

「どうやったって勝てないですよ!」 だっだら!」

彼らは自分たちの敗北を悟った二部の兵士たちだった。。。。

「だいたいなんで元老院のやつらの言っことなんて。。。。」

「もう付き合いきれねーんだよ!」 だからよあ。。。。」

男たちがミカを木箱の上に押し倒す。

「ま。。。。待つてください。。。。それは。。。。」

今元老院に逆らうことは絶対にできない。。。。

「犯ることやってから抜けさせてもらうぜ!」

「このまま死んでたまるかってんだ!」

肉棒をミカに向けてる一般兵たち。

血の誓約の事情など全く知らない彼らの中に

造反者が生まれてしまうのも無理からぬことだった。。。。

「うう。。。どうして。。。」

向けられた肉棒を直視できないミカ。

今まで見た目以上の年月を生きてきたけれど。。。

「やだ。。。こんなに。。。臭いの。。。？」

男性と交わった経験はなかった。。。

何度がそいつに危険な目には遭遇していたが。。。

「へへ。。。どうよ？ 結構自信あるんだぜ？」

「一般兵だと思って甘く見るなよ？ けっこうすげえんだぜ？」

「最近までもに女抱いてなかったからなあ…溜まってやがるぜ…！」

はあはあと呼吸を荒げながら男たちが迫る。

どこから汚そうかとミカの全身を見まわし涎を飲む。

「ふう。。。じゃあまずは。。。口を使って…奉仕してもらおうかな…！」

「んじゃこの綺麗な足、使わせてもらおうぜ？」

男の肉棒がミカの口内に侵入し

もう一本が右足の間接に挟まれる。。。。

「んっ。。。。ん。。。。いやあ。。。」

異臭が口内に広がっていく。

同時に吐きそうになるほどの嫌な味が舌の表面から伝わってくる。

「ふっ。。。。口の中。。。。あつたけえ。。。」

男がいやらしい笑みを浮かべながらミカ○の頭を撫でる。

「(ああ。。。。なんて。。。。気。。。。悪。。。。)」

思わず顔をしかめるミカ○。

「ん。。。。じゃあ。。。。ちはこの。。。」

男の肉棒がミカ○の真っ白な下着に近づいていく。。。。

「はあはあ。。。。お。。。。おばんつを。。。」

ミカ○の下着の上に男の肉棒が触れる。。。。



「いやっ。。。いやああ。。。」

男の肉棒がミカ〇の下着の上を激しく前後する。

「はぁっ。。。はぁっ。。。おぼんっ。。。ミカ〇さんの。。。」

はぁはぁと息をするたびにぼたぼたと涎が落ちていく。。。

「(やめて。。。おねがい。。。だれかあ。。。)」

口の中の肉棒、足に擦り付けられている肉棒もどんと脈打っている。

「おいおい。。。パンツのほっばっか気にしてんじゃねえぞ？ ちゃんとしゃぶれ。。。」

口内を犯している男が軽くミカ〇の頭を叩く。

「そ。。。そんな。。。うっ。。。」

戸惑いながらも男の指示通り舌先で肉棒に奉仕するミカ〇。

「んっ。。。いっじゃねえか。。。んんん。。。かなっ」

「うちは。。。もっ出る。。。パンツに。。。出すよ。。。」

「へっ。。。じゃあ一斉に射精するか。。。」

男たちがそれぞれ視線を合わせ、ミカ〇に向けて精液を解き放って行った。。。



「いやああっ……♡……口の……中……」  
どぶどぶと凄まじい勢いでミカコの口内に精液が放出される。  
そして下着の上にも大量の白濁液がふちまけられる。

「ば……パンツの上……こんな汚いの……いやあっ……」  
びちゃびちゃとミカコの体を精液が汚していく。

「あーきもちいー 最近負け続きだったしスカっとするぜ……」

「ああー！ 溜まってもんが二気にたぜ……」

抑圧されていた性欲が満たされ、緩んだ顔を作る男たち。

「はぁ。。。げほ。。。おえええ。。。」  
ミカ〇の口から精液がこぼれ力を失った肉棒の上を伝っていく。  
「ひ。。。ひどい。。。こんなの。。。」  
視線をスカートの中に送る。

精液で汚された下着がミカ〇の瞳に映る。

「べとべとして。。。うう。。。おえええ。。。」

血の誓約で逆らえない上に敗戦濃厚

さらに自軍の兵に暴行され、悲しそうな苦しそうな表情を作るミカ〇。

「ま。。。満足したのなら。。。もう。。。消えてください。。。」

そんな言葉が火のついた男たちに届くはずもなく。。。

「まだ。。。犯ってねえだろー!!」

男はそう言つと、ミカ〇の下着を横にずらし

己の肉棒を露になったその割れ目にあてがった。。。





「ああああっ…… な…… なに…… ああああっ……」  
「ずぶずぶとミカ○の純潔を引き裂きながら男の肉棒が膣内を犯していく。」  
「せ…… せまい…… だが……」  
「ゆっくりと肉棒が奥へ奥へと侵入していく。」  
「やめてえええっ…… お願ひ抜いてええっ……」  
「痛みを耐えながら叫ぶミカ○。」  
「はあはあ…… スク…… おま○だけ……」  
「男はそう言いつつゆっくりと腰を振り始めた……」  
「そつだな…… こんな機会をそつねえからな……」  
「気合を入れて犯さねえとなあ……」  
「男はそう言いつつ再びミカ○の口内に肉棒を侵入させた……」

「んんん。。。。また。。。。啜えさせられ。。。。」  
脈打つ肉棒が再びミカ〇の口の中を襲つ。

「ふっ。。。。さっき出したばかりなのにな。。。。へへ。。。。」

「俺もそうだけ。。。。これが。。。。クラスチエンジー!!」

「絶倫兵士か!! 強そうだな!!」

ミカ〇の肉体を貪りながら楽しそうに男たちが笑つ。

「(ひと。。。。どうしてこんなに楽しそう。。。。)」

男たちを見まわすミカ〇。

今まで運よく無事でいられたが

「歩間違えていればこんな目にあっていたのだろうか。。。。」

「はあはあ。。。。クラスチエンジーした俺の力を見せてやる!!」

男はそう言つとミカ〇の膣内を全力で突き始めた。。。。

「だ。。。だめ。。。こんな。。。はげしくされたら。。。」

初めて味わう快楽がミカオの理性までも犯していく。

肉棒が前後に激しく動き、ミカオの奥を突くたびに思考が途切れる。

「(す。。。い。。。き。。。きもちよくて。。。)」

ぐちよぐちよになっている膣内から卑猥な水音が漏れている。

「(う。。。ん。。。だげえ。。。もつだめだ。。。だめ。。。)」

ぶつぶつと咳きながら全力で腰を振り続ける。

「(あん。。。ああん。。。もつ。。。)」

ミカオの肉体が我慢の限界を迎える。

男の肉体と同時に。。。

「はぁっ。。。はぁっ。。。もう。。。限界だ。。。中に出すぞ。。。」

男はそう叫ぶとミカオの膣内にこの子種たちをぶちまけていった。。。



「ふう……。中出し……。すげえ手ごたえだ……。」  
中出しを終えた男は相当疲れたのか、肩で息をしている。  
「ちゃんと飲んだな。いい娘だ……。」

男が満足気に笑っている。

「(中)……。いっぱい……。早く掻き出さないと……。)」  
精液まみれの下半身を見つめながらキコツとミカシを握るミカシ。  
「こりや、孕んじまうんじゃねえかな……。」  
ゆっくりと肉棒をミカシの膣内から引き抜きながら男が言う。

「確かにこりやあすげえ量だ……。」

「だがまだだ……。俺たちも使っただからなあー！」

「じゃあ次だぜー！ まだまだ終わらねえからなー！ 誰のが一番相性いいかなー！」

男はそう言つとミカシの胸に手を伸ばし、衣服を引き裂き始めた……。

「へへ。。。じゃあ次は俺の番だな。。。ひひ。。。」

別の男がミカオの両足に手を伸ばし、股を開かせる。

先ほど行為で汚されたスカートの中を凝視しながら肉棒を勃起させる。

「やめてっ！。。。もう犯さないでえっ！。。。」

両足に力を含め、なんとか股を閉じようと必死に抵抗するミカオ。

だが、たとえ相手が一般兵だったとしても性別の壁は厚く。。。。

「けっ！。。。所詮女の力じゃなあっ！。。。」

「おっぱい揉ませてもらうぜっ！」

「今度は手でしごけよ？」

ミカオは男たちの行為に抗うことは到底できなかった。。。。

「いやあああっ！。。。もう許してええ！。。。」

叫び散らすミカオの下着の中に男の肉棒が入り込んでいった。。。。

「あああああつ!! また・・・犯され・・・」

下着の中を肉棒が前後し始める。

「ふう・・・これが・・・ミカ○さんの・・・パンツの中・・・」

男はミカ○を犯すのではなく、下着と肉体の感触を楽しんでいた。

「ふう・・・お願い・・・挿入しないで・・・」

震えるような声で嘆願するミカ○。

「へ・・・じゃあ言ってみる？ 私のパンツの中に射精してっとなっ!!」

男の肉棒がミカ○の割れ目に触れ、軽く突き始める。

「そ・・・そ・・・んな・・・」

男の要求に戸惑うミカ○。

「じゃあ、もう挿入れるか・・・」

男がミカ○の下着に手を触れ、引っ張り始める。

「ふう・・・いやあ・・・ぱ・・・パンツの・・・」

犯されたくない一心でミカ○が言葉を絞り出す。

「パンツの中・・・射精して・・・ください・・・」

男の口元がいやらしく歪んでいく・・・







「おおおおー……で……出るぜええっ……」

どぴゅどぴゅとミカ〇の下着の中に精液がぶちまけられる。

「うっうっ……気持ち悪い……」

びくびくと震えながら精液を下着の中で受け止めるミカ〇。

「おお……気持ちよそっ……」

「完全」マニャクな変態の世界だけだな…… ははは……」

「うらうらと楽しそうな笑い声が精液の臭いと共に満ちていく……」

「も……もう……いじしょ……」

男たちを見まわしすミカ○。

彼らの下種な笑い顔がその瞳に映る。

「パンツの中に出したんだし……もう……やめて……」

下着の中に潜り込んでいる肉棒が再び硬くなっていつている……

「どうして……硬くなって……お願い抜いて……」

抜いて抜いてと何度も男たちに呼びかけるミカ○。

「へへ……誰が……抜くかよあー!! その逆だぜー!!」

男はそう言つとミカ○の下着を引っ張り

露になった割れ目に肉棒をねじ込んでいった……



「あああああっ!!! やめてえええっ!!!」

「ずぶずぶと男の肉棒が再びミカオの膣内に入り込んでいく。」

「お願い!!! 挿入しないでっ!!! もうあんなのはいやあっ!!!」

「好きでもない男たちに犯され気持ちよくなってしまっ!!!」

「あんな屈辱は味わいたくない!!!」

「おお。。。結構きついんだな。。。」

「肉壁がギョツと肉棒を締め付ける。」

「愛液と精液にまみれた膣内を肉棒が突き進んでいく。」

「ま、ちよっと精液が残ってるのが気になるが。。。」

「肉棒がミカオの奥に到達し、男がゆっくりと腰を振り始めた。。。」

「うっ……あぁっ……やめてえ……」

先ほどと同様、下半身が徐々に気持ちよくなってくる。

「へへ……感じやすいんだな……ぞっ……」

ぱんぱんと男の肉体がぶつかってくる。

その度に肉棒が膣内を攻め立て、ミカオの体を悦ばせていく。

「だ……だめえ……無理矢理されて……いやなはず……なの……」

悔しそうに唇をかむミカオ。

「いや顔してんじゃねえか……手がおるすになってる……」

「気合い入れてし……け……！……じゃねえと口に突っ込むぞ……！……」

仕方なく両手を使い男に奉仕し始めるミカオ。

「はぁはぁ……素直でいいな……おじさんからの褒美だ……」

男はそう言つとミカオをイカせるために全力で腰を振り始めた。

「ああ……だめ……激しくされたら……私……」  
「否応なく上昇する体温……激しくなる呼吸……」

「ふうー!! はぁ!! ぬおおおおっ!!」

下腹部に力を込め、精液が出ないように必死にこらえながら  
男はミカ○の体に己の体と欲望を全力でぶつけ続ける。

「だ……だめえ……もう……」

ミカ○の顔が完全にとろけていく……

「あんっ!! ああんっ!! もう……だめえっ!!」

甘い声で喘ぎ、限界に達するミカ○。

その瞬間、男の肉棒がミカ○の膣内の最奥を突き、精液を放出し始めた……



「あああああつー!! 中に。。。出されええっー!!」

ビクンと体を痙攣させ声を張り上げるミカオ。

「おおおお!! 絞り取られるみてえだ!!」

どぶどぶと精液が注がれ、あつという間にあふれ出す。

「はあああ。。。こっちも出すぞー!!」

「俺もだ!! ぶっかけてやるー!!」

周囲の肉棒からも精液が飛び散っていく。

べちゃべちゃとミカオの全身に男たちの子種がこびりついてく。。。。



ああ・・・また・・・中に・・・」  
とこの精液が結合部から漏れている。

「いや・・・いや・・・いやああ・・・」  
涙が精液に混じり頬を伝っていく。

「ふう・・・出した出した・・・マシ最高!!」  
「挿入前にこんなに出して大丈夫かな？」

「中に入れてりゃすぐ戻るぜ?」

再び別の男の肉棒が侵入していく・・・

「ついでミカ〇はまだまだ終わらない

男たちの性欲に晒され続けるのだった・・・



「げほ……ごほ……」

ミカ〇は男たちの手で精液まみれの無残な姿にされてしまった。

日が落ちて部屋が闇に包まれても男たちの行為は止まらず

体のありとあらゆるところを使われ、膣内にも何度も出されていた……

「やりすぎちゃいましたかね……」

「ま……まあ……もう軍抜けるんだし……」

「そ、そうだな……ごまでやった以上もう……猶予は……」

男たちは精液まみれのミカ〇を放置してその場から姿を消した……

差し向けられた追っ手によって彼らは始末されるのだが

彼らの行為が負の力を大幅に強めてしまったことを知る者はいなかった……



「いやあああつー!! 助けてええっー!!」

山小屋の中に響き渡るミス○の絶叫。

柱に縄で縛り付けられ、ミニスカートを捲り上げられてしまっている。

「はあああ。。。いい眺めだぜえ。。。」

「なかなかマニアックな縛りだな。。。パンツがよく見えるぜー!!」

男たちの視線が露になったミス○の純白の下着に集中している。

「やだあああつー!! パンツ見ないでええっー!!」

ミス○は仲間の女騎士に根みを持つ賊に拉致され

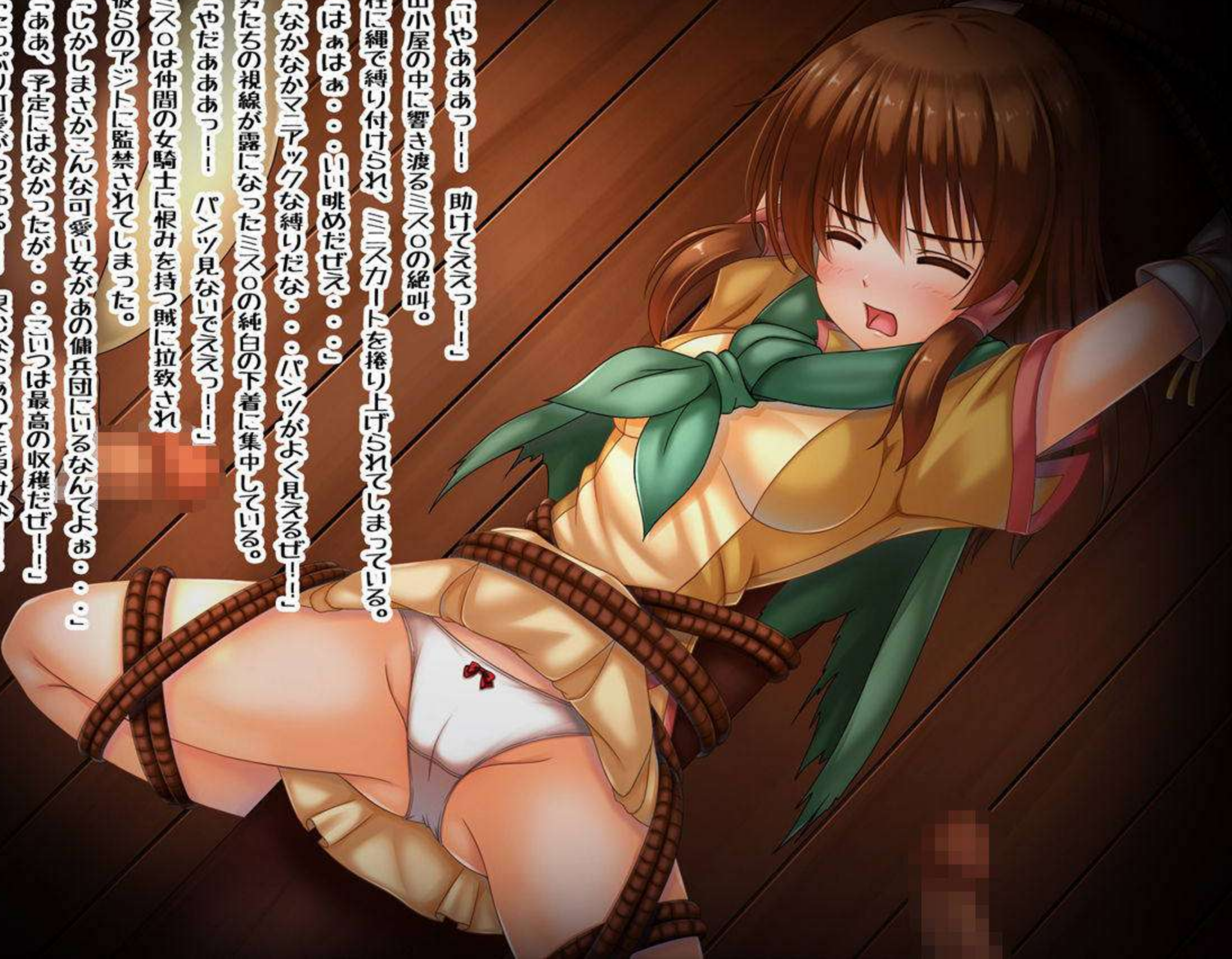
彼らのアジトに監禁されてしまった。

「しかしまさかこんな可愛い女があの傭兵団にいるなんてよあ。。。」

「ああ、予定にはなかったが。。。こいつは最高の収穫だぜー!!」

「たっぷり可愛がってやる!! 恨むならあの女を恨みな!!」

男たちはそれぞれの股間に手を伸ばし、勃起した肉棒を取り出していった。。。



「え。。。いや。。。どうして。。。おち。。。」

ミス〇に勃起した肉棒が向けられる。

本能的な恐怖を感じているのか、表情が曇り体が震えている。

「どうしてっちなぁー!」

「これがおちん〇の使い道なんだぜ!」

「さっそくそのパンツに教え込んでやるぜ!」

「人の男が肉棒をその手でこすりながらミス〇に近づく。。。」

「いや。。。こ。。。こないで。。。それ。。。しまつてよ。。。」

がくがくと震えながら声を振り絞るミス〇。

「はぁ。。。ふう。。。こんな美少女のパンツで出来るなんてよ。。。」

男はそう言つと捲くれ上げられたミス〇のミニスカートの下に

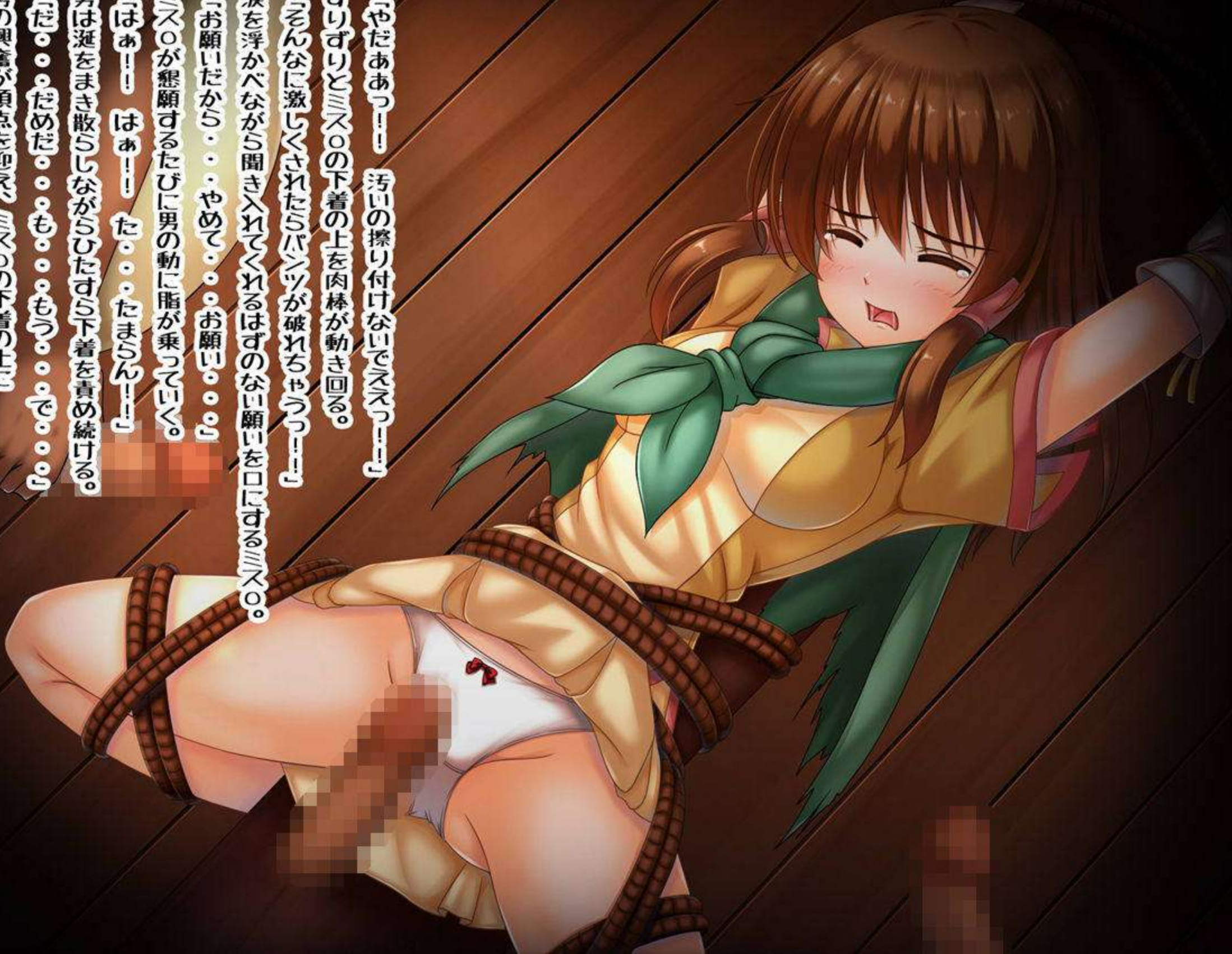
ぎんぎんに勃起した肉棒を近づけていった。。。。






「いーいやあああああー!! パンツに何する気なの!!」  
勃起した肉棒がミス〇の真っ白な下着に触れる。  
ドクンドクンと脈打ち、男の興奮を布地越しに伝えている。  
「お願い!! パンツにあてないで!!」 いやあああー!!  
やめてやめてと悲痛な声でミス〇が叫ぶ。  
「はあー!! はああああー!!」  
男がミス〇の下着の上で肉棒を上下に動かし始める。  
「やべえ。。。無茶苦茶興奮する!!」 心臓が破裂しちまいそうだ!!  
男はそう言いつつ、より一層激しくミス〇の下着に肉棒を擦り付けるのだった。。。

「やだあぁっ…… 汚いの擦り付けないでえっ……」  
「ずりずりとミスの下着の上を肉棒が動き回る。」  
「そんなに激しくされたらパンツが破れちゃうっ……」  
「涙を浮かべながら聞き入れてくれるはずのない願いを口にするミス。」  
「お願いだから…… やめて…… お願い……」  
「はぁ…… はぁ…… た…… たまごん……」  
「男は涎をまき散らしながらひたすら下着を責め続ける。」  
「だ…… だめだ…… も…… もっ…… で……」  
「男の興奮が頂点を迎え、ミスの下着の上」  
「大量の白く濁った液体がぶちまけられて……」





「いやあああああっ……なにこれえっ……何が出てるの……?」  
どぴゅどぴゅと勢いよくミスOの下着の上に精液がぶちまけられる。  
「精液だよ……さすがに見るのは初めてか……えんえん……」  
凄まじい勢いで放出されたそれはミスOの下着だけでなく  
ミススカートや白い肌にもびちゃびちゃと飛び散っていく。  
「やだあああっ……スカートが……パンツが汚れちゃっ……」  
あっという間にミスOの下半身が精液で汚されていく……

「んっ。。。。んんん。。。。んんん。。。。」

悔しそうに歯を食いしばるミス。

「ふう。。。。出た出た♪ 気持ちよかったぜえ。。。。」

男たちが精液で汚されたミス。の下半身に視線を送る。

「ほんとにひどいな これじゃ汚ばんだぜー!」

「もうこのパンツ洗っても精液の臭い消えねえな!」

男たちが悔しそうにげらげらと笑い出す。

「いやあ。。。。この汚いの拭いて。。。。拭いてよあ。。。。」

ぼろぼろと涙をこぼすミス。

その姿がより一層男たちの性欲に火を付けていく。。。。



「さーて。。。次は何しようかなあ。。。」  
にやけ面で男がミス○の体を見廻す。

「いや。。。いや。。。お願いだから。。。」

涙声で男たちに訴えるミス○。

「そんなお願い聞いてくれるバカな男は。。。にはいねーよ。。。」

「こんな可愛いミス○カ少女に容赦なんてするかっての。。。」

「だいたい俺らまだ射精してねえしな。。。」

男たちがミス○に吐き捨てる。

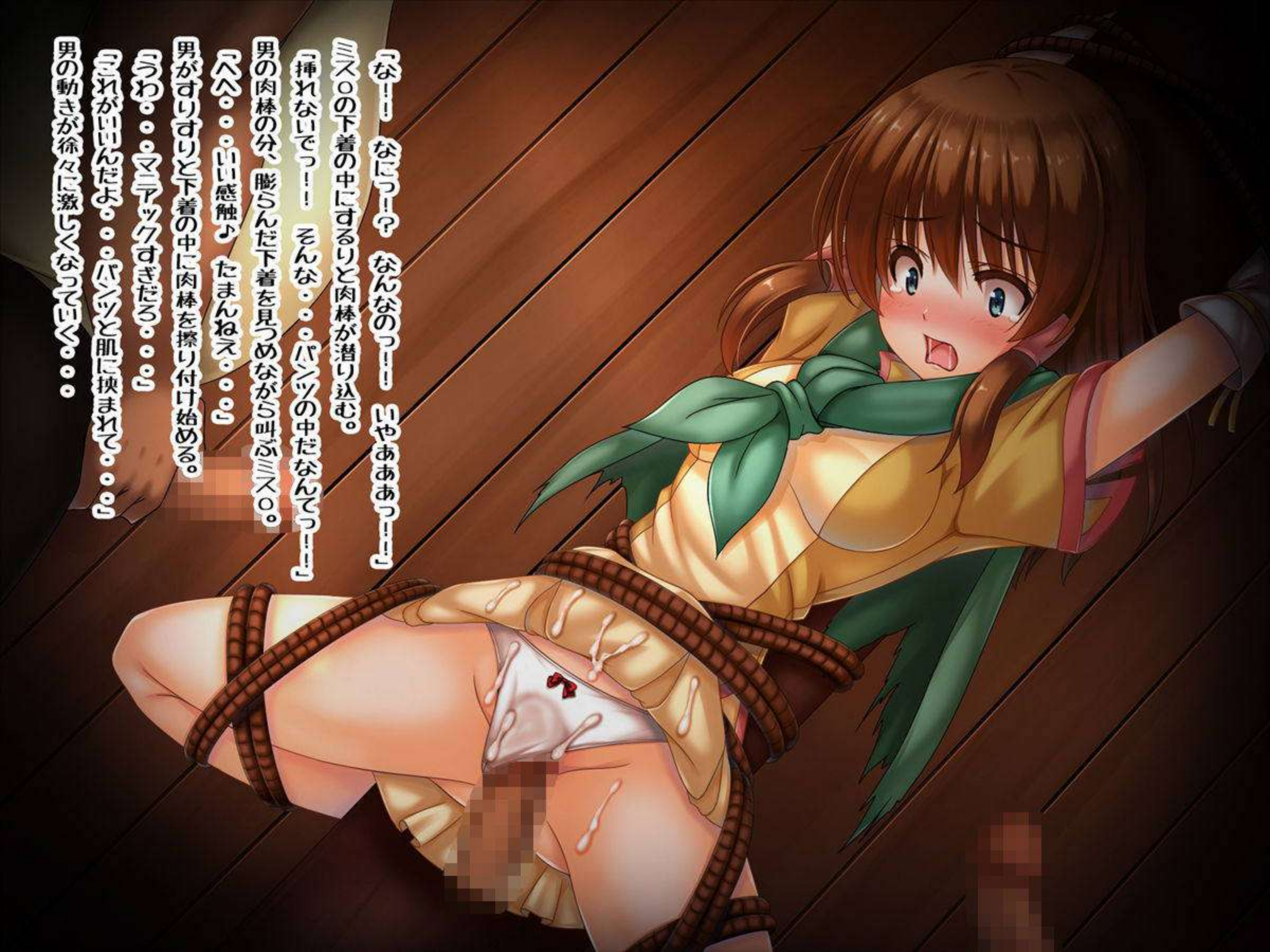
「さーて。。。次は。。。」

頭の中でなにをして辱めようかと。。。を考えている。

「そつだなあ。。。<<<。。。パンツの中。。。出してるやあつが。。。」

男はそつ言つとミス○の下着をのこのこの肉棒を挿入して。。。





「な……なに……？ なんなの……」 「やあああ……」  
「ミス○の下着の中にするりと肉棒が潜り込む。」  
「挿れないで……！ そんな……パンツの中だなんて……」  
「男の肉棒の分、膨らんだ下着を見つめながら叫ぶミス○。」  
「へへ……いい感触♪ たまんねえ……」  
「男がすりすりと下着の中に肉棒を擦り付け始める。」  
「うわ………マジアツすぎだろ……」  
「これが……なんだよ………パンツと肌」挟まれて……」  
「男の動きが徐々に激しくな………」



「はぁっ…… はぁっ…… 止まらねえ……」

ミス〇の下着の中を激しく肉棒が上下する。

「やめてええっ…… もう変な液体出さないでえっ……」

大粒の涙を流し泣き叫ぶミス〇。

「お願いだから…… 抜いてえええっ……」

何度も何度も叫ぶが男が容赦する気配はなく……

「はぁっ…… ふっっ…… すげえ気持ちいいええっ……」

ひたすら己の性欲に従い腰を振っている。

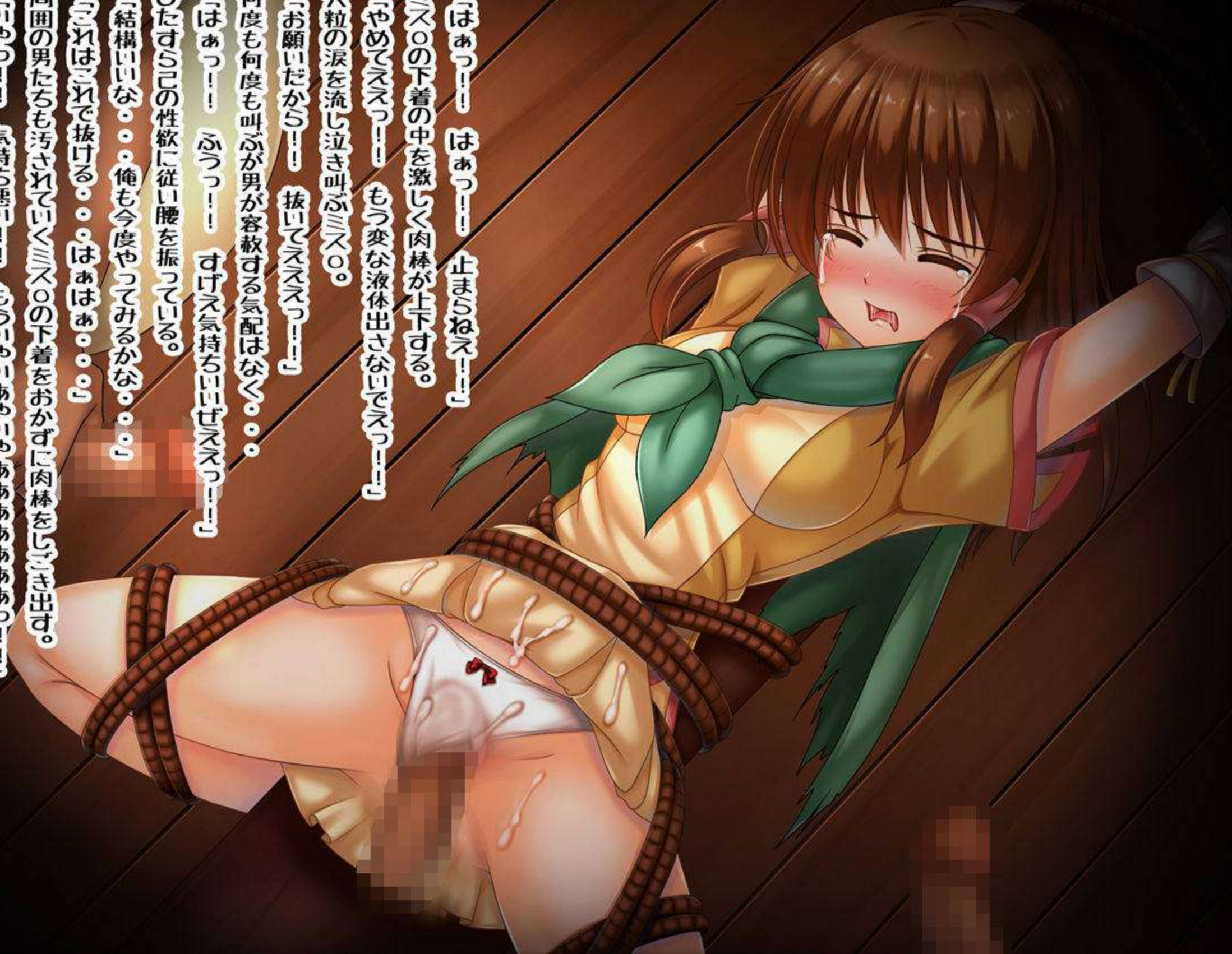
「結構いいな…… 俺も今度やってみるかな……」

「これはこれで抜ける…… はぁはぁ……」

周囲の男たちも汚されていくミス〇の下着をおかずに肉棒をしこみ出す。

「いやっ…… 気持ち悪い…… もついやいやいやあああああぁっ……」

ミス〇の絶叫と同時に下着の中に精液がぶちまけられていった……



「おっど。。。勢いあまって。。。>>。。。」

どこのどの精液がミス〇の下着の中に広がってる。。。

「いやあああああっ。。。パンツの中に。。。」

ねっとりとした精液の感触がミス〇を襲つ。

「気持ち悪いっ。。。外に出してええっ。。。」

必死になって叫ぶミス〇。

「お。。。出しやがったな。。。」

「じゃあ俺も出すか。。。行くぜ。。。」

周りの男たちもミス〇に向けて精液をぶっ掛けていく。。。

「なんでええ。。。なんでこんなことするのおお。。。」

びちゃびちゃと精液がミス〇の体に飛び散ってる。。。



「ううう。。。こんなの。。。あ。。。」

涙目で男たちを睨みつけるミス。

「へへ。。。パンツくちよくちよになっちまったな？」

「うーか、下半身が精液でべっとべっとだなー！」

「あの女騎士がこの姿見たら発狂しそうだなー！」

男たちがゲラゲラと笑い出す。

「そこを返り討ちにして。。。へへへ。。。」

「じゃ、もっとあの女の冷静さを奪ったために。。。」

「ああ。。。じっくり犯してやらねえとなあー！ 行くぞー！」

男はそう言つとミス〇を柱から下し、その体を抱きかかえた。。。。





「あああああっ!! 何を・・・これ以上何をやる気なのっ!!」

「両足を無理矢理開かされ、下着を見せつけるような格好にさせられるミス。」

「さーて・・・精液知らなかったしな・・・」

「ナニするんだらうねえ!!」

「男性を知らない少女を無理矢理犯す・・・」

「その興奮が男の肉棒に信じられないほどのエネルギーを与えている。」

「パンツ気持ち悪いの!! 履き替えさせて!!」

「声を張り上げるミス。」

「お願いだからあ・・・お願い・・・」

「どれだけ叫んでも男たちにその声が届くことはなかった。」

「お願い。。。許して。。。お願い。。。」  
男たちを見つめながら声を振り絞るミス。

「おとなしく。。。人質になりますから。。。お願い。。。」

何とか男たちから逃れようと嘆願し続けるミス。

とれだけ声が届かなくてもお願いする以外、か弱い少女に出来ることはなかった。

「悪いがな 世の中の男にさっしう願いは。。。」

男の指がミスの下着に伸びていく。

「や。。。やだあ。。。」

ミスの下着が横にずらされていく。。。

「届かねえんだよ。。。 あきらめる。。。」

ミス〇の性器に男の肉棒があてがわれる。。。

「んじゅ。。。んげー。。。女にしてやる。。。」

ぶらぶらと音を立てながらミス〇の純潔が散っていった。。。。

「あああああああっ…… いたあああああいつ……」  
初めてを奪われた痛みがミス〇の全身に走る。

「挿入しないでえええっ…… お願いiiiiっ……」  
ずぶずぶと肉棒がミス〇の膣内に侵入していく……

「ふう……せ……せま……」  
ギョッと包み込んでくる肉壁に抗いながらミス〇の膣内を肉棒が進む。  
「でも……すげえ……iiiせ……」

先ほどのパンツ責めの際に少し反応してしまったのか  
ミス〇の膣内は男の侵入に対してミス〇の心のような抵抗を示さなかった。  
「さっきパンツの中犯したとき、当たってたから……それで……か」  
男は嬉しそうに口元を緩め、ゆっくゆっくミス〇を上下に動かし始めた……



「お願い。。。抜いてよあ。。。」

顔を真っ赤にしながら男に訴えかけるミス。

嫌なはずなのに、気持ち悪いはずなのに。。。

「あん。。。いやあ。。。おかしいよあ。。。」

体の様子がおかしい。。。嫌悪感と何かが同居している。。。

「その顔。。。お前も少しづつ良くなってるんだぞ。」

ミス。の頬を男がペロリと舐める。

「。。。そんなわけ。。。あん。。。」

思わず漏れてしまう甘い声。

「。。。ま？。。。なんなんだー。。。なんにや行為をしてんだからな。。。」

男はそう言つとより激しくミス。の膣内を責め始めるのだ。。。



「あっ……だめっ…… やんっ…… あああんっ……」  
男の行為に抗いきれなくなったのか……

「だめっ……だめなのっ…… あああんっ……」  
ミスOの口から喘ぎ声が漏れ始める。

必死に「ええようとしても抑えられなくなっている……」

「だめじゃねえんだろ？ わかってんだよ……」

男の熱い鼻息がミスOの髪に絶え間なくかかっている。

「嘘はつきたくないって体が言ってるんだよ……」  
「NONO……」


男の激しい責めが続き、我慢が限界を迎える。

「ぶっ…… はあ…… いっせ…… 中に出すぞ……」

男の言葉と同時に精液がミスOの膣内に注ぎ込まれていった……







「あああぁっ！… な…中に出てるぅっ！…」

どくとくとミス○の膣内に精液が流し込まれていく…

「ぶっっ…最高…すげえ出る…」

ミス○の狭い膣内があっという間に精液で満たされる。

その証拠に途中から精液が逆流しぼたぼたと肉棒を伝い始める。

「やだああぁっ！… 出さないでええっ！…」

涙を浮かべ叫び散らすミス○。

「いやだね！…このまま孕んじゃえ！…」

男は一切の容赦なく、出せる精液のすべてを膣内に注いでいった…

「ふっ……。出した出した……。って俺だけか……。」  
他の男が射精していないのを不思議に思う男。

「無駄撃ちしたくなかったんでね……。へへ……。」

「元気いっぱい肉棒がミス〇の下半身の前にびえ立っている。」

「うっ……。お願い……。もう挿入しないで……。」

目の前の肉棒を直視できず、背後の男に頼み込むミス〇。

「あ？ バカかてめえは？ 俺も犯るに決まってるだろ？」

「こりゃお仕置が必要だな……。へへ……。こっちの穴に……。」

男はそう言つと肉棒を引き抜き、もう一つの穴にあてがった。

「いや……。え？ だって……。そっちは……。」

明らかに用途も大きさも違う穴に……。

「へへ……。前後から責めまくってるぜー」

ミス〇の二つの穴を男の肉棒が貫いていった……。

「あああああああっ!! いたあああいいいっ!!」  
肛門を無理矢理肉棒が侵入していく。  
肉を裂く痛みで絶叫するミス。  
「そ、はだめえええっ!! やめてえええっ!!」  
目をむきながら声を張り上げる。  
「すげえ声だな。ま、そりゃそっか。。」  
「な!」そのうち良くなるって。  
「ミス」の悲痛な表情とは対照的に楽しんでる男たちが笑う。  
「ふっ。。。ちゃんと挿入ったぜ。。。」  
「じゃあ、覚悟しろよ!!」 二本挿したあっ!!  
男たちがゆっくりと腰を振り始めた。。。









「あがあああああっ…… いっっちゃあああああ……」  
射精と同時にミス○の頭が真っ白になる。

全身を痙攣させながら男たちの精液を受け止めるミス○。

「はあっ…… おおおおお…… 出るっっっっ……」

「おっ…… おっ…… なんだこりゃあ……」

あまりの心地よさと射精量に驚き声を上げる男たち。

凄まじく濃厚なそれが二つの穴をあっといっ間満たして……

「だめえ…… っぱいになって…… あああ……」

ミス○の意識が消えて……



「うっ……。あうっ……」

あまりに激しい行為の結果か、ミスOは気を失ってしまっていた。

「ふっ……。すごかったな……」

「気を失ってんのか……。ま、仕方ないか……」

男たちが結合部に目を送る。

大量の精液を逆流させている無残な二つの穴が瞳に映る。

「おい…… さっさと代われよ……」

「まだまだ後がつつかえてんだぞ……」

他の男たち騒ぎ出す……。まだ終わっていないのだと。

ミスOは男たちにたたき起こされ、その肉棒に蹂躞され続けるのだった……



「げほ。。。げほ。。。ああ。。。」

夜深くまで男たちはひたすらミス〇を凌辱し続けていた。。。

膣内肛門内口内。。。穴という穴を使われ

精液まみれの無残な姿にされてしまっていた。。。

「もつぶっ壊れちゃったか。。。」

「この姿見たらブチギレ間違えなしだなー!!」

「そつだなー!! 人質にはならねえかもしれねえけど。。。」

「いやもつ二人連れてきてたたるぞ!」

「あーそついやガキがいたな。。。地下室に放り込んでおいたぜ!」

男たちが互いの視線を合わせてにやりと笑つ。

「なら。。。気兼ねなく 犯れるな!」

こうしてミス〇は仲間たちが駆付けけるまでの数日間

男たちにひたすら犯され続け、滅茶苦茶にされた姿で発見されるのだった。。。



「さーで。。。観念したか?」

敗北したワ〇を男たちが取り囲む。

「へへ。。。めっちゃ可愛いじゃねえか。。。ムン。。。」

男の腕がワ〇のミスカートを伸びてく。。。

「あ。。。だめ。。。」

ワ〇の頬が恥ずかしさに赤く染まる。

「パンツは白。。。尻ポム付き。。。」

「ちゃんとりポムしてゐるんだな。。。 ははは。。。可愛くていいな。。。」

男たちが嬉しそうに笑い出す。

「ムン。。。なんでこんな連中。。。 対。。。」

悔しそうにぎしぎしを歯を食いしばるワ〇。

「ははは。。。 そりゃバカにみたいな決闘をしてるわけじゃねえからな。。。」

「。。。から先、 対。。。なんてことはねえからな。。。 覚悟しろよ。。。」

男たちがそれぞれ股間に手を伸ばす。

「ま。。。まさか。。。」

ワ〇が男たちを見まわす。

そこにはワ〇という美少女の肉体を求めて脈打つ肉棒があった。。。。



「や。。。やめてっ！。。。そんなの向けないでっ！。。。」

左右の頬に男の肉棒が近づく。

「はあはあ。。。肌綺麗だなあ。。。」

「髪もサラサラで。。。たまんねえぜ。。。」

早速ワ〇の横で男の手が肉棒をしごき始める。

「え。。。な。。。なに。。。」

突如始まったオナニに戸惑つワ〇。

「へへ。。。可愛いお顔にぶっかけてやるぜ！。。。」

男の手の動きはますます激しくなり。。。

「や。。。だ。。。出す。。。して。。。」

未だ見たことのない、男の肉棒から出る液体。。。精液。。。

「や。。。やめてええっ！。。。」

ワ〇の叫びと同時に男の欲望が解放されていった。。。



「きゃああー!! やだああー!!」

どぴどぴとワゴの横顔に精液がぶちまけられていく。

「ぶっ。。。はぁ。。。ちやったよ」

べちゃべちゃとサラサラの髪に臭く濁った精液が飛び散っていく。

予想外に早い射精に他の男たちがあきれたような顔をする。

「早くないか? 出すのよ」

「善は急げって言うでしょ? あーきもちい」

溜まっていたものを出し、すっきりした顔で男が天を仰ぐ。



「うう。。髪。。。。かかっている。。。」

「うんうん、Wの髪に精液がびっしょり。。。」

「う。。。。うん。。。。臭い。。。。。」

「うろりと濁った白い液体の異臭が嗅覚を襲う。。。」

「濃厚だからな。。。。うん。。。。。」

「精液の質に自信があるのか、男が誇らしげな顔をしている。。。」

「はは。。。。言っじゃねえか。。。。 だったら俺も。。。。。」

「男の言葉と同時に反対側からも精液がWに向けて放出されていった。。。。。」



「ああ…… いやああ……」

びゅるびゅると再び精液が70の可愛らしい顔を襲う。

「やめて…… かけないでよも……」

べちよべちよと先ほどと反対側を精液が汚していく。

「ぶっ……。こんないい女相手に射精するの久々だぜ……」

うれしそうにほほを緩ませ男が笑う。

その感情をのせているかのようじ、男の肉棒が濃厚な精液を吐きだして……



「ううう。。。んんん。。。やああ。。。」

悔しさと恐怖に顔をしかめるワ〇。

「ん。。。E顔になっているぜ!」

「怖いかな? 何にもできねえもんなあ?」

男たちが追い打ちをかけるように言う。

「。。。わく。。。なんか。。。」

震えを隠せないワ〇。

普段の元気な声がすっかり鳴りを潜めてしまっている。

「じゃあ。。。そつだな。。。次は。。。」

男の視線がワ〇の捲り上げられたミニスカートの中。。。

〇ポンのついた白くて可愛く下着に向かって。。。



「え？ 3003や。。。なに。。。？」

男が勃起した肉棒をワ〇の下着に向ける。

「へ。。。やっぱりパンツはいいなあ。。。」

充血した目でワ〇のミニスカートの中を見つめる。

「いやああ。。。何をやる気なの。。。あたしのパンツ。。。」

嫌な予感が胸の中に広がる。。。。

先ほどのように精液をかけられてしまうのではないかと回つ予感が。。。。

「近づけないで。。。 やめてくれ。。。」

肉棒の先端が白い布地に触れる。

「じゃあこのパンツ。。。 使わせてもらって。。。」

男はそう言つとワ〇の下着にこの肉棒を接触させ激しく擦り付け始めた。



「あ……あ……な……な……」

男の行為に戸惑うワ○。

「ば……ばん……パンツ……いやあ……」  
ずりずりりとワ○の下着の上で肉棒が前後する。

「はあっ…… はあっ…… うおおおっ……」

男が声を張り上げる。

「はい…… パンツの感触…… たまん……」

可愛い少女の純白の下着をこの肉棒で汚す……

その行為がもたらす異常な興奮が大量の精液を作り出していく……

「で……でる…… 精液…… パンツの上に出すぞ……」

男はそう言うつとすさまじく濃厚な白濁液を

汚れを知らないワ○の下着の上「ぶちまけていった……





「いやあああああ……ぱ……。パンツにかけないでええ……」

どぴゅどぴゅとワ○の下着に精液が放出される。

異様な興奮が生み出した濃厚な白濁液が白○下着を汚していく……

「相変わらずマ○アックですね……。」

「俺、今日、この瞬間……。目覚めたかも……。パンツ射精……。」

男たちが行為を見ながら「やにや」と笑っている。

「はあ……。ふっ……。おぱんぷっかけ……。」

呼吸を整えながら男が咳く。

「さっ……。だげえ……。」

あつ……。ワ○の下着が汚されて……。



「ば。。。。パンツが。。。。濡れちゃう。。。。」

大量の精液がワコのミニスカートの中を汚してやる。。。。

「出した出したよ、やっぱりスカートめくってパンツに出すのは最高だぜ!」

「このパンツもつはけねーな!」 スカート自体怖くて履けなくなっちゃうから!」

男たちがげらげらと笑い出す。

「う。。。。なんであたし。。。。こんな奴らに。。。。」

どうしてこんな男たちに負けてしまったのだから。。。。

悔しくて悔しくて視界がぼんやりと。。。。

「さーと。。。。前座はバクバク。。。。」

「ああ。。。。そつだなああ!」

「孕ませようぜ!」

ワコの絶叫が夕日の中に消えていった。。。。



「あう。。。。や。。。。やめて。。。。」

お尻を突き出させる格好にさせられ、男の上に跨らせられるワ〇。

「へへ。。。。い眺めだぜ。。。。白EBANメ。。。。」

男がはあはあと荒い息遣いをしながらワ〇の下着を撫でる。

「さ。。。。さわらないですよ。。。。」

男をキツと睨みつけるワ〇。

「強気なんだが弱気なんだか。。。。これが怖いんだろ?」

男が肉棒を出しワ〇の口元につきつける。

「。。。。こわくなんか。。。。」

肉棒から目をそらすワ〇。

「だったらこうやって向き合ってみるやあああっ!」

男がワ〇の頭を掴み、手で口を無理矢理開けようとする。

「おら!。。。。じゃぶるんだよ!。。。。ぶっ殺すぞ!。。。。」

「言うこと聞けやこら!。。。。早速犯されてえのか!」

仕方なく口を開け、男の肉棒を迎え入れるワ〇。



「(あああ。。。なんて臭い。。。味。。。)」

異物の嫌悪感に思わず目を閉じるワ〇。

「(。。。こんな。。。こんな。。。されちゃったの。。。)」

女性が戦場で男たちに負けてどうなるか

もちろんそれについて完全に無知であったわけではないが。。。

「(。。。とんざん。。。あたしが。。。)」

いざ此処までされてしまつて、己が戦場と云つもの

として男性と云つ生き物を甘く見ていたことを否応なしに思い知る。

「よいしょよいしょ。。。いい感じじゃねえか。。。！」

ワ〇の頭を撫でながら男が笑みを浮かべる。

「(。。。はやく。。。終わってよ。。。)」

必死に耐えるワ〇。

「へ。。。もうイヤって顔だな。。。じゃあ出してやるよ。。。！」

男はそう言つとワ〇の口内に大量の精液を注ぎ込んでいった。。。



「ああああ〜…♡…口の中〜」

♡♡♡♡♡の口内に精液が放出される。

「お〜きもち〜…めっちゃ精液出るぜ〜」

♡の頭を引き寄せ♡♡♡の精液をその口内に流し込んで♡。

「♡…♡…♡ん♡…♡♡♡」

出された精液が喉の奥に絡みつけて♡…

「♡…♡…♡♡♡…早♡…抜いて…」

だが、男は精液を放出しても肉棒を引き抜かず

♡にそれを飲み干すように要求を出すのであった…



「はぁ。。。はぁ。。。けほ。。。たほ。。。」

何とか精液を飲み干したワ〇。

肉棒が引き抜かれた瞬間に、吐き出せる分を吐き出す。

「あーあ そんなに嫌な味だったかあ？」

「濃すぎたんじゃねえのかお前の？」 めちゃくちゃ興奮してたたるっ」

ワ〇の口から精液がこぼれていく。。。

「なんであたしが。。。こんな。。。うえええ。。。」

飲み干してしまった分も吐き出さずと嗚咽を漏らすワ〇。

「ったん。。。こりゃあもって立場をわからせてやらねえとなー！」

ワ〇の下にいる男はさう言いつつワ〇の下着に手を伸ばした。

「な。。。なに？ ま。。。まさか。。。」

男がその白い布地を横にずらしていく。。。



ずぶずぶずぶ。。。

ずらされた下着が覆い隠していたワコの性器に肉棒が侵入してんぐ。。。

「あっ!!!! ああああっ!!!! っ。。いれないでええっ!!!!」

ただの少女であったワコを女にしながら男の肉棒が奥へ奥へと向かっていく。

「おお。。。。こりゃ。。。。初めてだったか!!!!」

男が嬉しそうに顔をほころばせる。

「この顔のミエカで? この聖人君子だ? こいつの周りの男ともは!!!!」

「ありえねえな!!!! 俺だったらほっとかねえわ絶対!!!!」

「その分俺たちがたっぷり可愛がってやるぜ!!!!」

その言葉と同時に男がゆっくりと腰を振り始める。





「うあああ……抜いてええ……さだま……」

唇をかみしめながら痛みにも死に抗つワ○。

「おお……すげえ締め付け……や……やへえ……」

気を抜くと精液が溢れ出しそうになる。

今まで味わったことのない絞り取るような締め付けが男を襲う。

「ううう……あたし……こんなの……」

痛みともう一つ、本能的に欲する快楽が少しずつワ○を蝕み始める。

「気持ちよさそうだな……じゃあ俺も……」

「おいおい……二本はくらねえぞ……」

「んや……おれは……」

男がワ○の下着を引っ張り上げ、排泄のための穴を露出させていく……

「うちの穴を頂くぜ……おらあ……」

ぶたぶたとワ○のもう一つの穴を肉棒が蹂躪していく……

「あああああああつー！！ いたあああああつー！！」

引き裂かれるような痛みがワ〇を襲う。

「そ。。。そこの穴はあああああつー！！ ああああああつー！！」

激痛から逃れようと体をねじりひねり必死に暴れようとするワ〇。

「お願いー！！ 抜いてー！！！！ 壊れちゃつー！！ お願いー！！」

男にすぎるような声を出すワ〇。

「そつだな。。。もう二回口で可愛がってくれたら俺が説得してやるよ？」

「なるほどそれなら聞く耳持たないこともない？ かな？」

ワ〇の口内再び肉棒が侵入していく。。。。



「へっへっへっ。三本挿しの完成!!」

「面白い!! 誰が最初に射精するかチキンレースだ!!」

男たちがそれぞれ腰を振り始める。

「(な。。。話が。。。ちが。。。)」

肉棒を吐き出そうと頭を後ろに動かそうとする70。

「逃がさねえよ!! おらおら!!」

男が髪をつかみまるで口内を性器であるかのように男が突く。

「こりゃ興奮するぜ!! この無理矢理感、力づくってのが最高だぜ!!」

「戦いで負かした美少女を犯すってのがまたたまらねえ!!」

「体売ってる女じゃこんな興奮は味わえねえからな!!」

男たちの動きがどんどんエスカレートしていく。。。



「(あああつー!! 頭の中が。。。お尻が痛いのにっー!!)」

痛み、快楽、嫌悪感。。。様々なものが頭の中をかき乱す。

だが時間がたつにつれ快楽が70を支配して行く。。。

「(どうして。。。なんで。。。気持ちよく。。。)」

反応していく女の体に戸惑う70。

「(こんなに滅茶苦茶なこと。。。されてるのに。。。)」

悔しさに涙を浮かべる70。

「はあ。。。はあ。。。も。。。もっ。。。)」

「お。。。降参か? って俺も余裕ないけどな。。。)」

「(じゃあ二気に射精してやるっぜー!! 4人仲良く絶頂だー!!)」

男たちはそれぞれ視線をあわせ、70の体内に大量の精液を放出し始めた。。。



「あああああんっ……せ……。精液がいつぱい……」

ワ〇に挿入されている三本の肉棒が

それぞれの子種を欲望のままにぶちまける。

「回つもより絶対濃いぜ……ムンムン……」

「これも飲めよ……栄養満点だ……」

「孕め……孕めえっ……」

男たちが雄たけびをあげながら

それぞれが使っている穴へと白濁液を流し込んでいく……



「(うっ。。。。なんで。。。。気持ちよくなって。。。。)」

ぼろぼろと涙を流すワ〇。

快楽を得てしまったことが悔しくてたまらない。。。。

「ぶっ。。。。出した出した。。。。」

「瞬枯れるかと思ったぜ。。。。ぶっ。。。。」

「二回目なのにここまで出るとはなあ。。。。へへ。。。。」

男たちがワ〇の体をそれぞれさすり満足げにこの出した精液を見つめる。

「(早く解放してよ。。。。お願い。。。。)」

涙を浮かべ男たちを見上げるワ〇。

「じゃあ交代!! 次俺が膣内な!!」

「おれちよっと休憩。。。。押さえつけるからお前らががんばれ。。。。」

「情けねえな!! ま、俺らが犯ってるの見てたらまた戻ってくるだろ!!」

再び男の肉棒がワ〇襲つ。

辺りが暗くなっても、男たちは本能のまま戦利品の少女を弄び続けた。。。。



「げほっ。。。あ。。。ああ。。。」

男たちに散々可愛がられ精液まみれにされてしまったワ。

「何回出したっけな。。。ん。。。」

「はあ。。。はあ。。。いやもう。。。無理。。。」

「もう目利いちちゃってるよ。可哀想になあ。。。ひゃひゃひゃ。。。」

男たちもワの肉体に精液を絞り取られ疲れ切っている。

「さて。。。こんないい女まず抱く機会ないからな。。。」

「でももうボロボロだけ？ 持ち帰る意味もねえだろ？」

「いや。。。あと二晩。。。二晩。。。」

こうしてワは男たちに連れ去られ、数日間監禁され

ひたすら男たちに犯され腹の中に新しい命を宿すのであった。。。。

